



No.434

発行 社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2010 3-4 月号

【インタビュー】

松井学長インタビュー

【トピックス】

新入生へのメッセージ

【随 筆】

監査役

【紀 行】

ルーマニアを旅して

【ごきそホットライン】

表彰者紹介

奨学金の授与

【情報ネットワーク】

会員ニュース

パズル

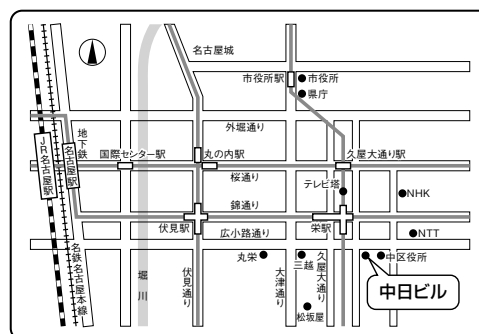


平成22年度 (社)名古屋工業会第44回通常総会ご案内

と き 平成22年5月29日(土) 14:00～
 と ころ 中日パレス
 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル5F
 TEL 052-261-8851

総 会 14:00～15:30 クラウンホール
 特別講演 15:40～16:40 “
 パーティー 17:00～19:00 エンゼル
 パーティー会費 6,000円(当日受付へお支払いください)

議 事
 第1号議案 平成21年度事業報告及び決算報告
 第2号議案 平成22年度事業計画及び予算案
 第3号議案 役員改選
 第4号議案 公益法人制度改革に対する対応
 第5号議案 その他



行 事
 イ. 叙位叙勲等表彰者に記念品贈呈
 ロ. 母校退職教職員への感謝状と記念品贈呈
 ハ. 卒業満70年(S15年)、60年(S25年)、50年(S35年)の正会員への記念品贈呈
 (総会出席者及び委任状提出者に限る)
 ニ. 特別講演 講師:東京新聞・中日新聞論説委員
 日比野守男氏(B48、院B50)
 演題:「メディアから見た日本の社会保障の将来(仮題)」

上記ハ.の卒業年次該当の方は、特に旧交を温められる好機でもありますから、正会員でない同窓の方も是非お誘いの上打揃って出席いただき、喜びを分かち合ってください。なお、ハ.の卒業該当の方へは特にご案内状を差し上げませんので、本誌に挟み込みの「通信ハガキ」にてご出席の有無をお知らせください。

また、正会員の方でご欠席の場合は、お手数ですが挟み込みの委任状にご記名ご捺印の上、返送いただきますよう特にご協力をお願い申し上げます。

名古屋工業会定例評議員会ご案内

と き 平成22年5月29日(土) 12:30～
 場 所 中日パレス コスモス

表紙写真説明

「桜のトンネル」

鶴舞公園から名古屋工業会館へ向かう道が、満開の桜でトンネルのようになっていました。
 なるべく離れたところから望遠レンズで風景を圧縮しながら撮影したうちの1枚です。

撮影者 黒柳 奨(EJ③)

インタビュー

松井学長インタビュー

インタビュアー 名古屋工業大学副学長・教授、名古屋工業会理事 木下 隆利 (W50)
 名古屋工業会常務理事 二村 幸夫 (K39)
 名古屋工業大学教授、名古屋工業会広報委員会委員長 北村 正 (Es48)

去る平成21年12月8日、名古屋工業大学学長室において今年度末で学長の任期を終えられる松井信行先生にインタビューをさせていただきました。任期中の運営にかかわるご苦労、また今後の名古屋工業大学の展望について伺うことができました。

学長就任、国立大学法人化の波を超えて

Q 本日は年末のお忙しい中、インタビューをお受け頂きましてありがとうございます。

まず法人化についてお話を伺います。松井先生が学長に就任された直後に法人化がスタートしました。その時のお話と、その後から一期中期計画期間が終わろうとしている現在までについてお聞かせいただけますか。

松井学長 ご承知のように柳田先生が学長として赴任された当時、国立大学時代ですが私は副学長を務めておりました。当時、大学院改編の問題がありましたので、それが完成するまで6ヶ月間延びて2年半の間副学長をしました。それで副学長の職を降りて教授職に戻り、大学のマネジメントの世界からは足を洗ったという気持ちでおりましたので、当時沸き上がっていた法人化については聞き流していて何も勉強しておりませんでした。ところが法人化の直前に学内的なドタバタがあって何人かの熱心な推薦者が現れ、学長になったのが平成16年1月のことです。

にわか勉強をしました。法人化についてよく勉強をしておられた先生が何人かおられましたので大急ぎで勉強して対応を考えたというのが正直なところ。法人化は大学側から望んで進んで行ったのではなく、国の小さな政府や財



写真1. 松井信行 名古屋工業大学学長

政問題と関わり合って沸き起こったものとして行われましたので、軋みがありましたが、ともかくも進んでいったわけです。私が一番気になったのは当時の遠山敦子文科大臣が法人化に向けて出した3つの方針の中に「大胆に国立大学の再編・統合を進める」という項目があったことです。特に単科大学についてはその存在が疑問視されていました。我が大学はまさに単科大学であります。1905年以来、単科大学として営々と活動을続け数多くの卒業生が巣立ってこの国の産業の振興のために尽くしてまいりました。このような貴重な歴史を持つ大学が単科大学というだけで再編・統合の対象にされてたまるものかと思ったのですが、この問題が現在に至るまで大きな課題です。

もう1つは、名古屋高等工業の時代から私達の大学がヨーロッパやアメリカの進んだ科学技

術にキャッチアップするための体制づくりや、それに関する人材育成をやってきたことに関わります。第2次大戦は科学技術の負けであったという認識があったこともあります。名工大の歴史は国の歴史に連動して動いていることは明らかです。現在、科学技術で欧米と肩を並べる様になった段階で工業大学が日本の社会に果たす役割は当然変わってきます。この舵取りをどのようにするか、これが法人化と絡んでここ数年間は我が大学固有の問題として大きな課題となっています。

Q 具体的に色々なことを先生の発案でやってみえたと思いますが、特長となる部分はありますか？

松井学長 教育面でいえば、かつて日本の大学は同世代の8%~10%の人達が高等教育を志し、その受け皿として機能してきました。ですが現在はご承知の様に同世代の52%が大学へ進学しますので、物量的に増えてきた大学進学者という一つの事柄を取り上げて考えてみれば、大学が社会に果たす役割が変わってきたのも事実です。その変革に対応した教育体制を大学としてどうとっていくかというのが大きな問題で



写真2. 名古屋工業大学 教授、
名古屋工業会 広報委員会委員長 北村 正

した。具体的には学科、大学院の再構成、それぞれのコースでの教育内容の再検討、特に名工大は産業界に出て行く卒業生を数多く輩出していますので、産業界からの要求と、学問に立脚して教育内容を考えている私達の立場とのマッチングをどう実現していくかが大きな問題でした。

研究面でいえば、国の基本的な研究経費が少なくなっていくのは残念ですが、一方で競争的資金が増加してきています。その競争的資金の獲得のために色々な方面で研究活動を展開しておられる先生方をどういう形で編成していくか。幸い教員組織がフラットな制度になりましたので、教員制度の特長を生かして研究プロジェクトを学内的にどう編成していくか、こうした面について一緒にやっている副学長を始めとする皆さんのご協力で段々と形ができてきています。

本学は外部資金獲得の点では教員あたりの実績は非常に高いものがあると思います。その中に産学連携も含まれますが、他の大学にない新しいシステムや制度が我が大学に生まれております。これは卒業生の力、中京地域という地理的な特長に支えられていて他の大学では、真似のできない制度が動いていると考えています。

もう一つは国際交流、学生や教員の国際的な広がりを大きくしていくことですが、これも他の大学にない独特な事業が展開されており、これから更に充実させていく時期になっています。ですから教育内容、教員を自在に編成したプロジェクトタイプの研究活動の展開、国際交流の推進、この3つが今までやってきた目玉だと思います。

外部資金獲得と産学官連携の施策

Q 名工大は外部資金を随分獲得していると高い評価を頂いていますが、その辺に力を入れたということでしょうか。

松井学長 管理の職に就く前にたまたま共同研

究センター長を仰せつかった時期がありました。他の大学の共同研究では地域の企業と結びついている例が多かったのですが、本学の場合は地域の企業と結びついていることはもちろんありますが、地域の企業＝世界のトップ企業であるという特長があります。もう1つは共同研究が必ずしも地域の企業に限定されず、全国区レベルで展開されています。こうした本学の共同研究の実績が蓄積された強い面をより強化していくよう、当時、共同研究センター長として努力しました。

地場産業に対するサービスとしてはご承知の「研究協力会」を立ち上げて、現在までその活動が続いております。会員企業数が発足当時から減少することなく現在に至っていますのは、関係する先生方の変な努力による成果だと思っております。

「プロジェクト研究所」という制度も法人になってから考えました。この制度は他の大学からも注目され、各所に説明に行きました。自分達の大学でもできるのではと着手された形跡がありますが、結果的に名工大のような形でプロジェクト研究所に類似の活動が始まった例は他に聞いていませんので、やはり名工大の独特の制度です。卒業生の力であり、地域の企業が単なる製造拠点ではなくR&D機能を持った企業が集積している特長に支えられています。

Q プロジェクト研究所は若手の研究者の育成にも貢献しているということですが、その辺はいかがでしょう。

松井学長 それは初めの構想段階から入っていたことです。国立大学時代の名工大が工学部として規模が大きくなっていく過程で助手の口を教授に振り替えて工学部を大きくしてきましたが、結果として若手研究者の層が薄くなっていたという事実があります。そこでプロジェクト研究所の1件1年2,000万円はポストクの雇用を前提として、相手企業の状況を勘案して決めました。結果的に毎年プロジェクト研究所制度

の中で20～25人のポストクを雇用できていて、本学の若手研究力の強化に繋がっています。

Q 全国に例を見ないユニークなシステムですね。

学長任期後半へ、名工大に求められる教育・研究

Q 松井先生は1期4年の任期を終えられた後、再任され2期目2年間を務められました。第2期目の継続性についてはいかがでしたか。

松井学長 おかげさまで6年間学長を務めさせていただきましたが、個人的には初めの2年間プラス後の4年間という区切りの印象をもっています。初めの2年間は学長選のゴタゴタから法人化に移行していく大変動期の調整期間という色彩が強くて、色んな環境整備をした2年間でした。後の4年間はその中で敷いた新しい方向のレールの充実を図ることで、副学長や理事の方々に支えられて多少いい仕事ができたとはいえます。初めの2年間は混乱の収拾に明け暮れたというのが実感ですね。

Q 最初は中期計画が立っていましたのでそれに乗ってスタートしたと思いますが、実質的に先生の考えが後半になって入ったという見方でよろしいでしょうか。

松井学長 中期計画は学長になった直後の1月から3月の間に学位授与機構の許可を得て幾つか書き換えたので、第1期の中期計画目標は私の考え方も盛り込んで進んできました。しかし、人事を含めて初めの2年間は色んな調整期間でした。

Q 学長が就任された当時、遠山大臣や文科省に対するアピールのために「工科大学構想」をまとめられました。任期の6年間、それが益々加速されたとお考えでしょうか。

松井学長 当時の大学の大きな方向付けは、1つには異分野との融合による新しい工学の創成であり、もう1つは先程からお話ししているこの地域の特長を活かして他の大学にない産学連携を大きな武器として進めること、この2つでした。

前者はまさにキャッチアップの時代からトップランナーの時代になった環境の中で、工科系の単科大学は従来のコテコテの工学教育では限界があって、新しいジャンルを切り開いて行かねばならないという1つの提言です。これは学内で非常に強力に新しい分野に取り組んで頂いた先生方がおられて、現在まで外部資金の獲得とも繋がって大きく伸びたと思います。

それから『産学連携を基軸に』というのは名工大独特のシステムがうまく動いていますけど、これは中京地域に立地している名古屋高等工業時代を含めた名工大の卒業生の方達があらゆる産業分野で活躍してこられた功績があってできたことです。阪神工業地域や北九州工業地域あるいは関東で同じことができているか考えれば、やはりこの地域独特なのだと思います。

Q 研究面では世界に追いつき新しい分野を開拓して行く方針ですね。木下先生は研究担当の副学長ですが、そちらについてはいかがでしょうか。

木下副学長 産学連携、そして研究協力会を作る時に学長がどれだけ頑張られたかはお承知の

通りですが、学長自身が動いた面に加えて、学内のやる気のある先生方に惜しみない協力をされた面は見逃せません。例えば先進的研究機関との共同研究推進や大型研究事業の研究組織の充実などを念頭に、物質・材料研究機構や産業技術総合研究所と連携に動かれたり、忙しい中を予定を合わせていろいろな人に会いに行ってもらったりしました。

また多方面からのケアもあります。例えば、基礎学問分野の先生が工学部に所属しているので社会貢献のために、何とかしたいと話されるのを学長が聞かれると、それに対して惜しみなく手を差し伸べ、連携先を紹介したりするなど、手厚くケアして頂きました。こうしたことがユニークな研究につながり、直接にはプロジェクトに結びつかなくてもまわり回って外部資金獲得に繋がっていったという面が大きかったと思います。

学長は見分ける目が鋭いんです。そんなの止めておけと断る場面もありました。どうやって見極めておられるのかは伺いたいところです。これは俺も乗るぞ、それはちょっと、という識別をどうされているのでしょうか。

松井学長 過分の言葉をいただきました。COEが柳田先生の時にセラミックスで立ち上がったのはすごく嬉しいことでした。しかし、その後G-COEへとうまく続きませんでした。条件が厳しくなったなど言い訳を言えばキリがありませんが、結果的に続かなかったのは当時、大変残念でした。

再度問われる工科系国立大学の意義

Q 国立大学に再編統合という問題がでたときの話を伺いましたが、今また似たように仕分け作業で研究費を落とすと言われ第二の危機が訪れているかと思いますが、次の学長への期待も含め、いかがお考えですか。

松井学長 先日、民主党の議員さんが名古屋におみえになって県内の4つの国立大学の学長と



写真3. 名古屋工業大学 教授・研究担当副学長、
名古屋工業会 理事 木下隆利

意見交換をしました。私以外の学長さんは皆さん、これが足りないあれが足りない、このままでは皆弱体化するという大学の窮状を訴えておられました。しかし私は切り口を変えて、国立大学、特に工科系国立大学が社会に果たすべき役割という観点から少し突っ込んだ話をしました。

キャッチアップからトップランナーという先ほどのお話が1つ。少子化も含めて、どんどんパイが小さくなっていく状態の中で、民間企業と同様に大学もどう向き合っていけばいいか、日本の社会の規模が量的に小さくなっていく、そんな中で大学がどうすればいいか。そう考えていくと国立大学の再編統合という表層的な問題だけではなく、もっと深い意味で今後も輝く大学として残って行くためにどうすべきかという課題があります。

国会議員との面談の時に違った切り口から話をしたのは、あれが足りない、これが足りないという話ではなく、今まで国立大学が日本の社会にどれだけの貢献をしてきたか、そして歴史の中で国に知的インフラとしての大学の価値がどれだけ蓄積されてきたか、今後知的インフラとしての大学が持っている価値を日本の社会の



中にどう活かしていくかを骨子にして、その周辺に要求事項を付けてお話をしました。

いたずらに自分の大学がどうなるという訴えをするのではなく、もっと大きな流れの中で私達が果たす役割をきちんと定義できて、それが産業界や行政の人達に認知されれば私達の大学はこれからも光輝いていけるし、そのプレゼンテーションを明確にできなければ廃れていきます。これは大学だけではなく民間企業やあらゆる組織体がそういう局面にぶつかっています。

Q 今お話いただいた四大学と民主党愛知県連との対談のことですが、議員の皆さんの雰囲気はどういう感じでしたか。

松井学長 国会議員の方々は脱官僚を掲げておられますが、そうすると国会議員は思いっきり勉強しなければなりませんのでとても真摯な対応でした。実際にどうなのかということに関心を持っておられます。ですから、半分冗談めかしてお話したのですが、国立大学の問題についてご理解いただくための一番大事なことは、国会議員の方々が国立大学にインターンシップでお見えになることだと申し上げました。現場で今なにがどう動いているかということをご自身の目でご覧になって下さいとお願いしました。

中京地域の名古屋工業大学として

Q お話をお聞きしていて同感しております。共同研究や産学連携が全国レベル、全国展開できているのに比べて、学生がどうなっているのかお聞きしたいと思います。一部には名工大が地方大学化していると揶揄する声があります。入ってくる学生は結果的にこの地域からの学生に限定されています。これをできるだけ全国区画化することに対してどのようにお考えでしょうか。

松井学長 結論から言うとかかなり悲観的です。それは我が大学の責任だけではなく日本の社会構造が変わってきたということだと思います。

おじいちゃんやおばあちゃんが元気でご夫婦の間に子供が二人か一人、これが典型的な家族のパターンですが、おじいちゃんおばあちゃんには高卒の可処分所得よりも多い年金が入っています。息子夫婦や娘夫婦の多くは共稼ぎです。ですから経済的には地方ほど豊かです。持ち家に住んでいて、食料も自給できる方も多いため。その中で親やおじいちゃん、息子に世界に雄飛しないでほしいと思っているのです。自分の近くにいてほしいというのが事実だと思います。ですから一方でグローバリゼーションなどの言葉があって、あたかも人々が境界無き動きをしているように思われますが、企業活動は別にしてひとり一人、特に若い人が置かれている状況をみると動きが止まっていると思います。その中で名工大が全国から学生を集めることができるかといえば悲観的にならざるを得ません。

これは名工大だけではなく国立大学の多くが現実に地方大学化しています。特にこの地域は有り余る雇用があります。もし雇用がなければ人は動かざるを得ないでしょうが、雇用があるため益々人の動きは止まってきます。たとえば、この地域の企業の方々にこんなお話を伺ったことがあります。他府県の大学から入社してくれたと思っていてもよく調べてみたら、この地域の出身者がたまたま他地域の大学に行っているもう一度帰ってきていた例がよくあるそうです。このように人の動きが固定化していることに危機感を持っています。

Q 全国から学生を集めるのが本当に良いことなのかは疑問があります。この地域で育っていけばそれはそれで良いかもしれません。しかし、よく同窓会で諸先輩の話を聞くと、「名工大が地方大学化した」とよく嘆かれるのも事実です。たとえ、地方大学であったとしても、そこで役割を果たし、世界に羽ばたく学生を育てればよいのだと考えた方がよいのかもしれませんが。必ずしも地方大学が即、問題だという訳ではない

でしょう。昔の地方大学とは変わってきているようにも思います。

「異」との交流としての留学生、グローバルな人脈ネットワークとしての海外同窓会

松井学長 そこは全く同じ考えです。ただやっぱり若い人達が成長するためには、人でも物でも文化でも“異”と交わることが大事です。ですから、それに代わるものとして考えるのが留学生です。現にうちの大学も学生数約6,200名という規模の中で留学生が400人を超えています。そういう所で従前とは違う意味での若い人達に対する「異」との触れ合いが出てきていると思います。一番怖いのは、言葉で言わなくてもお互いに意思が通じるだけの世界に籠ってしまうことです。それだけは避けないとお互いの成長はないと思います。

Q 私もそう思います。同窓会の立場で申し上げますと、同窓会はまだ留学生の卒業生とは何もコンタクトをとっていませんが、いずれは留学生も含めた同窓会であるべきだと思っています。そこにもっていくのは難しいですが卒業生も自分達の仲間だけではなくて、色々な卒業



写真4. 名古屋工業会 常務理事 二木幸夫

生がいますのでその交流をもっとすべきではないでしょうか。留学生に対する同窓会の在り方についてどのようにお考えでしょうか。

松井学長 実は「ごきそ」でも紹介しておりますが、既に韓国のソウル、中国の北京・上海、さらに今回インドネシアのジャカルタに海外同窓会を作りますが、いまのところ名古屋工業会とは余り連絡をせずに作っています。

海外同窓会の一番の目的は、その地で教育活動や研究活動、経済活動をなさっている本学の卒業生に、より濃い人脈ネットワークを提供することなのです。ですから留学生だけが海外同窓会を作っているのではなくて、日本企業に入ってその地で仕事をしている名工大卒の日本人は当然そのメンバーですし、他の大学の卒業生でもその国でその集まりの中で一緒に活動したい人は入ることができるようにしてあります。その地の日本大使館やジャイカ（JICA）

などのオフィスのキーパーソンにも参画して頂いております。目的はその地において、放っておけば希薄になる人的ネットワークをより濃密にして、それぞれの人の活動に資することです。もちろん昔を懐かしむという側面もありますが、もっと実利的な特長が出せるよう活動をはじめています。

そうしますと会費や規定の問題もありますので、今直ぐ名古屋工業会とリンクすれば活動の障害になることも考えられます。今は名古屋工業会と切り離れた形で海外同窓会をはじめたのはこういう理由です。しかし名古屋工業会も同じ思いをお持ちでしょうから、遠くない時期にお互いがリンクできるようにお願いしたいと思います。

Q おっしゃる通り、よその大学の卒業生との交流は、特に海外では大事だと思います。海外にいくと、どこの企業だ、どこの卒業生だとい

松井学長任期中の主な事業（次ページにつづく）

16年度	・プロジェクト研究所制度の創設（現在、20研究所） ・学長裁量経費による学内重点研究の創設
17年度	・創立100周年募金の実施（19年度まで）、募金収入額 約15億3千2百万円 ・各種プログラムの実施 文部科学省「発進型国際技術者養成のための工学英語教育」（19年度まで） 文部科学省「技術の市場化を実現する産学連携教育」（21年度まで） ・企業研究セミナー（学生の就職活動支援）の開始 ・工場長養成塾を開始（経産省産学連携製造中核人材育成事業として実施、19年度から本学の事業） ・創立100周年記念事業（記念式典・祝賀会・講演会・産学官連携フォーラム in 東京の開催、「大野耐一 工人たちの武士道」を出版）
18年度	・中国の同済大学及び北京化工大学とのダブルディグリープログラムの開始 ・創立100周年記念事業（国際フォーラムの開催、校友会館の設置、100年史の刊行） ・韓国同窓会 開始
19年度	・各種プログラムの実施 文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（21年度まで） 文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育プログラム」（21年度まで） ・自動車産業スーパーエンジニア養成プログラムの開始、国際自動車工学教育研究センターの設置 ・名古屋市立大学と連携協定の締結 ・上海同窓会 開始 ・大学基金の設置

松井学長任期中の主な事業（つづき）

20年度	・大学院および第二部の入学定員の改編（博士前期399名→586名、第二部140名→20名） ・専攻再編整備（未来材料創成工学専攻及び創成シミュレーション工学専攻の新設、都市循環システム工学専攻の廃止） ・愛知工業大学、大同工業大学、豊田工業高等専門学校と連携協定の締結 ・物質・材料研究機構と連携協定の締結
21年度	・若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラムの開始 ・産学官連携による若手イノベータ養成の開始、若手研究イノベータ養成センターの設置 ・核融合科学研究所と連携協定の締結 ・大学基金による事業（学生研究奨励、ダブルディグリー支援、N I T国際工学賞海外派遣、学生プロジェクト支援、交流留学生奨学金、海外拠点推進経費の開始） ・緑化基金の設置 ・インドネシア同窓会 開始
22年度	・大学基金による事業（大学奨学金、研究資産の事業化に関する助成の開始）（予定）

うことは関係なくなります。日本とどう繋がるかになりますね。名古屋工業会ではまだまだ整理が必要ですが…。

松井学長 「ごきそ」に、何年卒が集まって会を開きましたと浴衣姿で写真を撮っているような記事が沢山ありますが、「ああいう記事が主流になっている間は私は名古屋工業会には入らない」という方が複数おられました。そういう面も大事なんですが、もう少し実利的な面で名古屋工業会が卒業生や在学生に提供できるものは何かということが示されないと、積極的に名古屋工業会に入る気持ちになりませんと強くおっしゃる方が多くおられるわけです。だからそういう声を名古屋工業会が組織や活動にどうインプリメントしていくかが問題です。

Q 同窓会なのでそうした面を全くなくすわけにはいきませんが、そこをベースにしながらも、年次の違う卒業生が交流できる所にメリットがあって、それが結果的に大学にはね返るとというのが理想形だと思います。

松井学長 学者の世界もビジネスの世界もそうだと思いますが、その世界に入って最初の頃は人的ネットワークが欲しいと強く思わないのですが、ある年代になると自分の組織と同等ある

いはそれ以上に外の世界の人との繋がりが、自分の仕事にプラスになる局面が出てきます。その時に単に名工大の卒業生ということに留まらなくてもいいと思うのです。人的なネットワークをひとり一人に繋げていくような活動は非常に力強い思いがありますので、同窓会というのは幅広く捉えていった方がいいのではないのでしょうか。

100周年事業を振り返って

Q 100周年の事業では講演会をしたり、国際会議場を借りて研究活動の発表などいろいろな事業を開催されましたが、その時の様子や苦労話がありましたらお聞かせ下さい。

松井学長 卒業生である私が学長の仕事をしている時期に本学の100周年というビッグイベントに出くわしたことは本当に幸せでした。もう次はありませんから。100周年の記念事業があれだけの展開を見せることができたのは、当時の瀧川孝事務局長が記念事業を重大なものとして考えていただいて、学術的な色彩を濃くしましょうと私に強く勧めてくださったことが大きいと感じています。来賓も日本学士院の会長(当時)の長倉三郎先生、遠山敦子元文科大臣、国

大協会長（当時）の相澤益男先生をお迎えし、ノーベル賞候補やそれに匹敵する方々を海外から招聘し、色んな研究会を行いました。それから名工大としてはアメリカの元国務大臣コリン・パウエル氏を100周年記念の一環として招聘できたのも大きなイベントでした。この地の実業界の方々に大きなインパクトになったと、仰っていただいております。

もう一つは記念募金です。これについて当初10億円、その後15億円に増額して募りましたが、大変多くの方々にお世話になりました。ここで名前を挙げて御礼を申し上げたいと思います。名古屋工業会ではY33年卒業の牛込さん、M35年卒の塩見さん、若くなってK46年卒の伊奈さんです。この三人は何処どころの社長や会長に会おうと、私を連れて東京や大阪を実際に回ってくださいました。学内的には中西先生と水谷先生で夫々のルートを通じて私を引き回してくれました。もちろんこの方々だけでなく色んな先生方や卒業生からのご協力を得てあちこちを回りました。時には門前払いをくらったりしましたが、おかげ様で目標額を達成できました。これも卒業生の方々や本学の先生方のご協力があってこそと大変感謝しております。

おかげで10億円という大学基金もでき、これから学生支援や学術支援に動いていきますが、問題は、切り崩しながら運営しますので、その分をバックアップせねばならないということです。それについて十分議論することになっていたのですが、基金の運用計画が先にでてしまい、議論は止まったままになっています。これからバックアップの整備を進めなければなりません。その時には単に温情にすがって寄附を頂く形は、この先もう無理だと思います。やはり事業目的を明確にして賛意を表して頂くことから始めなければなりません。100周年の募金にまわっている時にも色んな社長・会長からそういう趣旨の発言を頂きました。

これからの名古屋工業大学

Q 今後中期計画が第2期に入りますが、第2期の特長はありますか。

松井学長 第2期の計画は学内的にも公示してありますが、先程来お話してきた事柄の集大成になると思います。どんどん大衆教育機関になっている大学の中で、名工大はこの国の新しい産業の勃興と雇用創成のために何を創り出していけるかが本学の大きな課題です。

それから少子化の中でも大学の進学率は上がっていて、52%の方が大学に進学しています。皆さんビックリするかもしれませんが、実はこの数字は諸外国に比べると低いんです。同世代の多くの学生が大学に行くようになって有能な人材を世に輩出して行くために、教育システムとしての大学は体質改善が必要です。第2期中期計画の中にもそれを受けて新しい教育システムの構築が提言されています。大きく変わっていく社会の中で大学は本来の機能を発揮していくために、何をどうすべきかが盛り込まれているとご理解頂ければと思います。そしてこの第2期の成果が国立大学の再編・統合への結果として、基礎データになると思われます。今の時の流れでいえば、もしかすると第2期の前半でその答えを求められると思います。

在校生、新入生へのメッセージ

Q 最後に在校生やこの4月に入ってくる新入生にメッセージをお願いします。



松井学長 私はこの大学に昭和37年、1962年に学生として入りました。学部4年とマスター2年の6年間在籍し、1968年に助手としてこの大学に勤め、2010年に学長の任期を終え、お別れいたします。職業人とし42年、学生時代を含めると48年になり自分でもビックリしています。半世紀近くここに居たことになり、よほど融通の利かない男だったのだろうと思います。その間いろんな方にお世話になったのと、良い学生に恵まれて現職時代は大変楽しく研究室を運営できたことについて、「ごきそ」の誌面をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。

この年限での経験からみて、この大学は「皆さんの人生を変えます」と言いたいのです。入学式などで卒業生で偉業を成した方に来て頂いて新入生にスピーチをして頂いています。帝人の長島会長だとかキャリア教育の一環として名古屋工業会のお世話でお話し頂いた卒業生の方々もいます。この大学のキャンパスに来られた時には悩み多き青年だったわけです。自分の将来について不安を持ったり、好きな異性ができて悩んだり、酒を飲んで羽目を外し失敗した

りと悩み多き青年として大学の門をくぐられました。しかし、この大学に培われた独特の質実剛健の気風や、よってたかって学生実験をやり遂げるというような荒っぽさとか、こうした教育を受けている中で、皆さんの体内に新しい芽が育って、それが世の中に出て広がっていくわけです。

おそらく入学した時に自分が学位を取ったり社長になったり、プリウスのような車を作ったりなんて誰もわかりません。それでも卒業して営々と技術の世界でやった結果が大きく花開いています。そのベースはキャンパスの中での4年間、6年間という時間の蓄積にあると思います。

だからハッキリ言えることはこの大学は「あなたの人生を変えます」ということです。先輩に続いて大学の中で思いっきり自分の時間を使ってほしい、それが私の新入生へのメッセージです。

Q 長時間にわたりありがとうございました。

松井学長経歴

松井信行 昭和18年5月生まれ

専門：パワーエレクトロニクス、電気機器学、制御工学

昭和41年3月 名古屋工業大学工学部電気工学科卒業

昭和43年3月 名古屋工業大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了

昭和43年4月 名古屋工業大学工学部 助手

昭和51年7月 工学博士（東京工業大学）

昭和60年4月 名古屋工業大学工学部 教授

平成8年11月 名古屋工業大学学生部長（併任、平成9年6月まで）

平成9年8月 名古屋工業大学共同研究センター長（併任、平成12年3月まで）

平成12年4月 名古屋工業大学副学長（平成14年10月まで）

平成13年11月 IEEE（米国電気電子学会）フェロー

平成14年11月 名古屋工業大学工学部教授に復帰

平成16年1月 名古屋工業大学学長（同年、4月より国立大学法人名古屋工業大学学長）

平成16年5月 電気学会業績賞

平成17年10月 IEEE産業応用部門 outstanding achievement賞

平成22年1月 購書始（宮中行事）に陪聴者として出席

トピックス

新入生へのメッセージ

自己実現に向けて

元 名古屋工業会理事長 藤原 俊朗 (K31)

入学おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。同窓の輪が広がり新たな喜びと期待を感じています。さて皆さんは何を目的に大学に入られたのでしょうか。名工大を選ばれた理由は何でしょうか。

今年の1月末に東京スカイツリーの建設現場を見学しました。緊張した雰囲気の中で、現場の方々の行動と熱い視線の中から、自己実現に燃えているものを強く感じました。皆さんは卒業後社会人として自己実現を目指すことになります。その為には生涯に亘って自己形成を続ける事でしょう。大学は自己を形成する第一歩とします。その一歩とは何でしょうか。

1. 単位（専門を学ぶ）から研究（発見・創造）へ

専門知識を身につけつつ、研究の段階で新しい発見と創造することを体験してください。その為には知識や研究課題の全体の中の位置づけを知ることです。知識を構造的に把握し、課題を俯瞰的に見ることです。又、施設や研究装置の機能を活用するだけでなく、自らのアイデアや工夫を入れることです。自らの専門分野の深化と関連する分野を幅広く学び経験してください。そこから発見や創造が生まれます。

学生時代に意識して上記の様な姿勢・行動・生活等をして、研究者・技術者としての基本を形成してください。自己実現＝創造的活動です。

2. コミュニケーション能力

人間力と言う言葉があります。知的能力、社会対人関係力、自己制御力等を備える事と解釈しています。そして生涯を通じて段階的相乗的に醸成されるものです。ここではその中でコミュニケーション能力を取り上げます。自己実現の為に最も必要な能力だからです。

コミュニケーション能力とは、情報や知識のやり取りだけではなく、合わせて感情のやりとりが必要です。相手を理解し自分も理解してもらう。読書と体育系のクラブ活動を勧めます。読書の積み重ねは心や気持ちを表現する言葉が細やかになります。自分の考え方を伝えやすくなります。体育活動は一つの目標に向かって、汗を

流し身体をぶつけ合い、体を張ってお互いを理解しあい補い合い成長していきます。更に読書やクラブ活動から相手の為に尽くす人間性が育成できれば喜ばしいことです。



3. 外を見る目をつける

外とは大学の外、国内と海外です。企業や団体と異なり、利害関係のない立場で外を見ますと普遍的であり公平です。対象となるものの歴史と風土を勉強してください。将来の姿を推察できます。そこから己の性格と体力を勘案した将来選択の一つの方法になります。

21世紀は世界の政治経済が大きく変わります。不揃いの多極化多様化をするでしょう。

消費、インフラ設備、金融システム、製品の多様化等々。皆さんも海外でお仕事をするが増えるでしょう。又海外の方との交流機会も増えます。その場合相手方の歴史宗教と国民性を理解することが肝要です。海外を知ることとも将来を考える事に役に立ちます。経済的に余裕があれば海外旅行をしてください。勿論卒業後も海外へ行くチャンスはありますが、意識して外を見る目を養成してください。

4. 終わりに

社会も企業も目指す方向が刻々と変化します。それに応じた能動的問題解決能力をつけてください。科学技術立国であることは不変です。そして大学、大学院での自己形成の質が皆さんの将来を決めます。自己実現に他を利用してはいけません。

大学側は大学と社会・企業相互関係の中で、先端をいく教育研究目標をカリキュラムを常に創り直す事を心がけてください。名古屋工業会も応援します。

トピックス

新入生へのメッセージ

高い志とバイタリティを

中部大学工学部客員教授
名古屋産業科学総合研究所上席研究員
名古屋工業大学名誉教授(元副学長) 梅野 正義

新入生の諸君、名古屋工業大学への入学、おめでとう。

入学式が挙行された公会堂の鶴舞公園の桜も開園100周年を迎え、ほほえみ、諸君を歓迎していることと思います。

諸君は、創立105年の伝統をもっている名工大に入学したのです。

名工大は、1905年に官立(国立)として中部地方で初めて開校された名古屋高等工業学校を母校とする大学です。(参考までに、名古屋大学は、次いで1908年創立の官立第8高等学校を母校とする。)名工大の卒業生6万余人の活躍は、全国、しいては世界にも広がり、この厳しい就職難にあっても、有利に展開していることと思われまふ。

日本の大学生は、入学までは大変厳しい受験勉強をしてきても、大学に入ると気が抜けたようになり、アルバイト等に時間を取られて学生時代を過ごす傾向が強いようです。

私は、博士研究員3名、大学院博士課程(後期)院生らと、地球環境の保全にマッチした、カーボン系太陽電池の研究開発を行っています。これまで、インド等の外国出身者が多くいました。彼らは大学、大学院では寮に入っていて、非常によく勉強してきた者ばかりで、実力をもっています。その点、日本の今後が心配されます。

まず、大学の授業は、基本的な事項ばかりなので、大いに勉強して、自分自身の実力を付けて下さい。

また、成長盛りの時期でもあるので、自分の身体を大いに鍛えて下さい。要するに、自分の意思で、自分自身を高めて下さい(自助)。交通の大変便利な名工大ですので、体をほとんど使わずに学生時代を過ごし勝ちとは思われるが、時には、近くの吹上公園のスポーツセンター等に行って、体を鍛えることも良いでしょう。

次に、友人を多く持つことです。大学時代の

友人は、社会に出たときの友とは異なって、利害関係もなく、気兼ねなく話し合えるものです。それに、大学と自宅や下宿との往復の毎日ではなく、

時には、友人らと一緒に、近くの山々にハイキングに行くことも良いでしょう。友人らとの親睦と体力作りにはもってこいの時季です。時には、お互いに悩みを打ち明けて、援助し合うことも心掛けましょう。要するに、自分だけでは解決が困難なときは、周囲の友が協力する関係を作ることです(共助)。

また、最近の環境問題のように、個人や家族・地域あるいは民間の力では解決できない場合は、公共(公的機関)を動かし、解決を図っていく努力をすると良いでしょう。大学等に不満がある場合は、意見を言い、大学当局を動かすことです(公助)。

大学生時代に、この自助、共助、公助の精神を、バランスよく養ってほしいものです。

新入生だけではなく、名工大の発展のためには、6万名余の卒業生が(社)工業会に入会し、互いに交流しながら意識を高め、教職員の方々も、教育・研究の一層の発展のために、ご活躍を期待しているところです。

このように、学生、卒業生、教職員の3者の各々の活躍と協調があって、今後の名工大の発展が期待されると思います。

多くの卒業生の活躍を見ていると、学生時代から、自助、共助とともに、特に公助の精神が旺盛な者は、成功し、会社等の重役になっている者が多いことを実感しています。

若き新入生諸君には、高い志をもって、バイタリティあふれる活躍に期待します。



トピックス

新入生へのメッセージ

Only one 技術者への第一歩

(有)超音波材料診断研究所 代表
名古屋工業大学名誉教授 川嶋 紘一郎 (MI40)

50年前に名古屋工業大学に入学し、平均寿命までの残存活動時間が3～4万時間のOBから、新入生諸君に大学時代の過ごし方に対する希望を述べたい。

大学卒業から定年に至る社会人・家庭人としての重責任期(40～45年間)、定年退職後の弱責任期(10～20年間)にわたり生きがいを持って過ごすための準備期間が、大学・大学院における4～9年間の無責任期である。重責任期に大失敗をすれば、仕事・家庭も失うこともあり、大冒険をすることが困難である。人間は成功から学ぶのではなく、失敗を克服する過程で智慧を会得する。無責任期に多くの知的・肉体的・社会的冒険に挑戦し、できるだけ多くの失敗を経験し、自己能力の限界を試すのが望ましい。勿論世界に通用する大学卒業生としての知的水準を達成しつつ、冒険と挫折と体験することは言うまでもない。

半世紀前における高度成長期には、中品質大量生産を可能とする従順・均質な直流型技術者が要求された。しかし、新興国の技術発展が加速されるこれからは、世界のonly one技術を我が国が開発・保有することが不可欠であり、そのためには、従順・均質な技術者より、発想力が豊かで失敗を恐れない特異技術を持つonly one技術者が求められる。

また一世代前であれば、技術者は卒業後就職した企業に定年まで勤めるのが一般的であったが、産業構造の変化により、今後は転職が多くなるであろう。社内転職も含めて、転職時にキャリアアップを可能にするためには、技術者が社内・社外でその分野の専門家として認められる固有技術を保有する必要がある。他人ができない課題に挑戦し失敗を繰り返しながら解決することで、固有技術が蓄積される。社外で専門家として認められるためには、できるだけ関連学協会で成果を発表し、それを論文或いは解説として公表する。そのような技術蓄積を基に、技術士或いは博士号を取得するも可能となる。

40年以上前、奥野健男氏は「技術者七つの大罪」という随筆で、文系出身者に対する理系人間の弱点を指摘した。現代風に言えば、①自己主張が弱い、②口頭・文書表現力が弱い、③社

会への関心が低いに要約されよう。核家族、テレビ、ゲーム機、携帯電話世代に育った理科系大学生ではこれら問題はさらに深刻化しているといえよう。



上記弱点のないonly one技術者を目指して、以下の事項に留意して、新しい暮らし方をして欲しい。

- 1 言葉・概念を覚え始める2～3歳のころは誰でも「何故?」という質問で親を困らせる。大学入学まで封印されてきた「何故」を在学中に追求することで、本質の理解に近づく。過去の知識は、百科事典、webで検索できる。大学では、新しい知を創造するための過程を学ぶ。その最初が「何故?」である。
- 2 親から離れた一人暮らしをしよう。高校までの過保護・拘束生活から脱却し、墮落せずに自律性を養いながら冒険をする。人のやっていないこと、不可能と思われることに失敗覚悟で挑戦する。
- 3 図書館を利用し、最低1ヶ月に1冊、娯楽・how toものでない教養書・理工学書を読み、著者と対話しよう。良い文章、論理構成の緻密さを学ぼう。要点のメモだけでなく、200～400字の概要を書くことで、概念規定の明確化、論理構成、表現力の訓練ができる。
- 4 大学の講義では、先生に宿題を課す質問ができるよう予習をしよう。先生は能動的・意欲的學生との対話を期待している。位相の合いそうな先生を見つけてoffice hourに押しかけ、共通の話題について議論しよう。高校まではgive and takeでなくtakeだけでよかったが、大学生は大人であるのでgiveする話題・課題を準備しなければならない。
- 5 大学、特に名古屋工業大学のような単科大学だけの生活では、世間が狭くなる。大学外で、異なる分野・世代の人とのつながりを作ろう。

トピックス

新入生へのメッセージ

実りある大学生活を

名古屋工業大学 教授
広報委員会委員長 北村 正 (Es48)

人生は出会いです。青春時代、特に大学生活で大切なことは、勉強だけではなく様々な場での出会いを経験することです。大学時代は4年しかありませんが、この時期に良書、クラス、研究室などで有益な出会いをしてほしいと思います。昨年11月の大学祭（工大祭）の日に、私たち40年前に入学した電子工学科の同窓会を行いました。40年前にタイムスリップして昔話に花が咲いたのですが、私たちが入学した頃や学生時代に経験したことから、新入生の皆さんのアドバイスになるようなことを書いてみたいと思います。

まずは良書との出会いです。高校の先生に、理系の学生には文系の素養、文系の学生には理系の素養が必要だと言われましたが、専門書だけでなく人生の問題を扱っている良書によってバランスのとれた知識を身につけてほしいと思います。私たちの時代には大学時代は時間的な解放区と言われていましたが、最近の学生を見ていると経済的な問題があるためか、アルバイトなどに時間を費やしている多忙な学生が多いように思います。私自身はもっと専門書だけでなくもっと色々な本を読んでおけばよかったと思っています。本学の図書館だけでなく近くにある鶴舞図書館などを利用して様々な良書を読むようにお勧めいたします。

次は同級生との出会いですが、私が入学した年（昭和44年、1969年）は多くの大学で大学紛争があり、当時の一期校であった東京大学の入学試験が行われませんでした。また、二期校であった本学も紛争のために入学試験を学内で実施できない状態で、私たちの受験会場は名古屋駅にある河合塾でした。同級生のほとんどが東大の入試がなかったことの影響を受けたわけです。また、同級生は関西を中心として西日本の各地から集まっていて、数名だけが地元出身者でしたので、大勢を占める大阪弁や広島弁が標準語のようなクラスでした。後述のようにクラブ中心の生活をしていましたが、もう少し同級生との関係を大切にしておけば良かったと思っています。

私の中学・高校生活の中心はクラブ活動（卓球）でしたので、入学するとすぐに入部しまし

た。卓球そのものの技術が上達したことやそれなりの成績を収めただけでなく、先輩・後輩から技術以外にも多くのことを得たこともよい思い出です。その当時は、3、4年生が



随分大人っぽく見えたものですが、同じ目的のため、苦楽や寝食を共にした卓球部の先輩方も今となっては親しい友です。名工大は単科大学ですが、それでも考え方が異なる他の学科の学生や社会人であるOB諸氏、他大学の卓球部の学生などとの交流もあり非常に有益でした。また、部の一員としての協調性やいい意味での上下関係などの貴重な経験をすることもできました。

また、4年生になると卒業研究のため研究室に配属されますが、一年間は同じ研究室で先輩・同級生と苦楽をともにするので、研究室での関係も長く続きます。私の場合は、電子回路の研究が希望でしたので回路の早原研究室に属しました。更に研究を続けたかったので東工大大学院へ進学し回路系の今井研究室へ配属されました。研究室は少人数の研究所や工場のようなもので、大学院に進学すると研究室の運営などにも関わりますので、研究面だけでなくチーム運営の経験もすることができます。卒業して40年近くなった今も、名工大の早原研や東工大の今井研のOB会が行われており様々な交流をしています。

これらの出会いの場を通して、新入生の皆さんが有益な学生生活を送ることを願っていますが、最後に卒業後の出会いの場である全学同窓会（名古屋工業会）、各学科の同窓会（単科会）を紹介しておきます。この会誌もその一端を担っていますが、他の職場の大先輩の方々から示唆に富んだアドバイスを頂くことができる様々な機会も数多くありますのでぜひ活用して下さい。

トピックス

新入生へのメッセージ

入学おめでとうございます

アイシン精機(株) 技術企画室 主査 河野 慎司 (M58)

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。私が卒業して20年以上の月日が経ち、いつのまにか新入生の皆さんへのメッセージを依頼されるような世代になっていたことに驚かしています。相当いい加減な学生生活を送った私が皆さんへ激励の執筆をするなど甚だ恐縮ですが、こんな私でも、自動車部品メーカーの幹部として頑張ってきているということで、少しでも皆さんの励みになればと筆を執った次第です。

多くの皆さんは大学入試を勉学のゴールとして一生懸命頑張ってきて、この度希望の大学に合格し、大なり小なり受験勉強からの開放感に浸っていることと思います。また、今から勉強を通して得るであろう知識が、社会に出てからどう役に立つのかも漠然としている人も少なくないでしょう。私の入学当時はそうで、恥かしながら、卒業後、技術屋として企業に入ってから初めて学問(=知識)の大切さを実感しました。企業に入って技術職に就くとプロとしての技術的な検証や判断を求められることに直面します。即ち、知識を活用する場面です。そんな時、大学であまり勉強しなかった私は、大学時代の教科書を改めて開いて知識習得に励んだものです。漠然と受身で学んでいた時よりも、必要に迫られた時の勉強は頭に入り知識は確実に自分のものとなりました。また同時に、知識があるだけでは課題解決は出来ず、知識をいかにうまく活用出来るかの方が重要ということも経験と共に学んできました。

大学の成績で「優」は取れなくても、技術課題を解決する時にどんな技術分野や理論があつてこんな本を見ればよいということが身につけていれば、いつでも必要な時に知識の習得や蓄積ができます。即ち、技術者の卵としては、大学を卒業できた段階で誰もが自然と身につけている程度のことで十分で、むしろ実践を通していかに早く知識を活用・応用出来るようになるかの方が重要なのです。

さらに、企業では仕事は一人で出来ませんし、自分一人で出来ることなど限られています。地位が上がり、より大きな仕事をするにつれて部

下や上司、社内外の関連部署を巻き込むことで大きな成果を出していることを実感することになると思います。そんな時、自分の取り巻く人間関係がどうか、いかに彼らを

巻き込めるか、が成功の鍵となってくるし、困ったときにお互いに助け合えるような関係や人脈は貴重な財産になってきます。ただし、そのような人間関係や信頼関係は一夜にして築けるものではなく日頃の接し方や信用の積み重ねです。若い時からそんな人間関係の構築が出来るよう心掛けていって欲しいと思います。

こんなことから、大学時代には勉強以外に何か打ち込めるものをひとつ見つけて欲しいと思います。私の学生時代は社会勉強と言いつつもバイトに明け暮れる毎日、大学の成績はさぼりの私でしたが、バイト先ではその懸命さを認められ、バイト長と言われるまでになっていました。よく4年で卒業できたものだと言われ感心されましたが、バイト先の理解ある上司のお陰で、試験週間の時期だけは1ヶ月きっちり休ませてもらい、友達のアパートに集まり、詰め込み式で試験勉強。類は友を呼ぶで、私の周りにはそんな仲間が集まっていて同じような学生生活を送っていましたが、そんな彼らも今は立派な社会人として企業の要職に就いて頑張っています。私の場合は、バイトでしたが、クラブ活動でも趣味でも何でもいいので、交友の間口を広げ色々な人と出会い様々な価値観を知り、人間の幅と人脈を広げていってください。それが人生の貴重な財産となると思います。一生に一度の大学生活が、勉強だけに終わるのではなく、色々なことにチャレンジし、メリハリのある充実したものになることを願って激励の言葉とさせていただきます。



随筆

監査役

加藤 雅樹 (D12)

団体の運営には当然金銭が必要であり、それを扱う経理係がいる。一般に1年に1回は金銭出入りについての監査が行われている。それにもかかわらず、最近新聞紙上は、団体内の金銭横領裏金作り等の犯罪記事で賑わしている。監査役はどうしているのだろうか。その責務を全うしているのか疑問を感じる。公認会計士と会社との契約関係が法的に成立しているが、被依頼者が金銭授受で結ばれている以上会社からの解約を恐れ、しかも長年にわたれば自然馴れ合いの情が生じるのは予測されていたはず。近來目に余ってきたのか、法改正して強制的に、担当公認会計士を5年で交代・報酬公開させようとの動きがある。

団体の種類・規模・構成員等で一概には言えないが、不正発生誘引の問題点として、次の3点に注目・観察してみたい。

1. 会計を一人に任せっきりにして、しかも彼に任せておけばと長年に亘る放任。
2. 監査がお座なりにされている。
3. 会計・監査以外構成員によるチェック意識欠如。

1) 情実が絡んだ、経理係の不適選任では論外である。長年担当している内に個人生活内容が変化して、所謂魔が差す・他からの誘惑に負けるなどが起きる。小額から始まり後で補填して隠滅、これに味を占め繰り返す。増額し補填が効かなくなり、惰性・自棄というか、毒を食らわば皿までもへ陥ってしまう。犯罪金額は補填されていても積算され、新聞紙上では莫大な額となる。

日常において、上司の監督不行き届きが問題になる。上司は部下の常日ごろの生活、特にその急変の有無（例えば、服装・遊び・ギャンブル・飲食等）に留意することが重要である。プライベートのことであるからと見逃せば、臍を噛む虞がある。

2) 監査役は一般に閑職と視られがちで、上席として敬意を払って名誉職的に長老へ振り充てる事が多い。当人も調査を面倒がり、唯形式的に目を通し認印押して終りにしてしまう。総会では証憑書類・帳簿を精査した所異常なく正確であると認めますと報告し、構成員の拍手で会計報告承認となり幕。

第一に、監査役自身の監査に対する理解・認識に問題があると思う。

監査するのが年1回で、総会日午前中の短時間で済まし、午後の総会で承認をとるという形式が一般に多いようである。こんなことで監査が出来る筈が無い。これが付け目で不正を企むようになるのは当然と想う。

監査は3ヶ月に1度はやるべきで、それで処理できなければ2・1月に短縮して履行すればよい。3ヶ月以上では訊問しても、監査を受ける者の記憶が薄れてしまっており、有耶無耶になってしまう虞が多いからである。

3) 猜疑心もつのは良くないではあろうが、お任せ態度でなく自分達全員の団体という意味からの、チェック意識は持つべきであると考えが如何。全国組織の協会で監査役をあてがわれた。月1回は上京していたので、前述したように3ヶ月毎に監査した。3ヶ月以内の事でさえ不審箇所に十分な回答が得られない事がある。その項目は用意のノートに記入、次回までに回答求める。次回はノートの項目から始める。金銭監査は当然の任務であるが、時には業務監査まで立ち入らねば了解できない項目もある。

最初に帳簿項目を順次見て行き、不審項目に

は頭へチェックを入れていく。証憑書類と対照しながらチェック項目を訊問する。これらの項目中に大抵2・3は次回再調査が出る。雑費は項目と費用との釣り合いを見ていく、同時に同項目の月日間隔・重複有無も調べていく。素人のやる監査では完璧になりえない。しかし自分達団体の金銭である認識を弁えて、委託された任務に臨むべきであると思っている。監査毎に必ず日付と共にサインを記入しておく。

小生は会社を撤収する3年前まで、10年ほど監査をやり（辞める2年前位に、会長は交通事故で退任、後任は業界トップ会社社長の県組合長が就任）小生は監査解任され理事となった。この後に前代未聞の椿事が起きた。理事になって数ヶ月後、専務理事（本省からの天下りで5年位経っていた）が機構改革と言って、これまでの経理担当者を解雇して専務自身が代行した。前会長ならばこんな機構は許さない。何か起きると危惧を感じた。翌年春になって解雇された経理担当者が同輩に出した手紙から珍妙な情報が入った。初夏になって午後の総会のため、午前に役員会が開かれ専務から決算報告があった。席上専務に質問した「辞めさせられた経理担当者が未だに給料を貰っていると言う事を耳にしたが事実か」「突然で可哀想だったので、我々の年末ボーナスから出した」「金が無いからと言って、年末ボーナスは出ていないはず、どうしてそうなるのか」以下ブツブツ・ムニャムニャで聞こえず。監査役に質問し「監査は如何でした」「証憑書類は殆ど無く、監査ができるような状態ではありませんでした」。会場は

騒然となった。「どうして決算書が出来ましたか。会長・副会長はどう思われますか」。総会は急遽1ヶ月延期。翌年も同じ監査状況の総会であった。小生は既に会社撤収計画を進めており、敢えて傍観していた。その後の事情について深くは知らぬが、専務は恥知らずにも、そのまま十数年居座り、数千万円の使い込みがばれて解雇され、2年後に死んだとか。協会では各社が損害補填したとの噂も聞いた。会長はじめ諸役員連中は何をしていたのか、奇々怪々。監査の怠慢は寒心の極。

さ の さ 節



さ の さ 節
 花すくし 山茶花 紅に水仙花
 トサノサ
 寒に咲くのは 梅の花
 牡丹芍薬ネ 百合の花
 おもとのことなら南天 菊の花サノサ
 月すくし 三笠の山では 春の月
 （くり返し）
 四季海原は 夏の月
 三保の松原ネ 秋の月
 田舎の栗科 きの月 サノサ
 人は武士 気概は 高山彦九郎
 （くり返し）
 京の三笠の 雲の上
 はもかに皇宮を 伏しおがみ
 痛める者は 加茂の本サノサ

先輩が入学歓迎会で教えてくれた「第二校歌」（サノサ調）を紹介します。

惚れーる なーらー 医大八高にー 高商は 野暮ーよー とサッサ
 七宝のー 徽章に 黒のバンド締め
 定規 片手にネー 御器所ヶ丘ーに 通う書生さんに 惚れーしゃんせ

各科クラス会など料亭酒席で気炎を上げていました。

学生生活エンジョイできたのは昭和12年卒業生まで、以後戦時体制に入る

紀行

ルーマニアを旅して

梶田 隆男 (W36)

〈フライト・ヘルシンキ空港〉

午前11時に中部国際空港を離陸したフィンランド航空のエアバス機AY080便は、中国・モンゴルを通過し、順調なフライトを続けている。シベリア上空に入ってからしばらく経った頃から、どうも腹の具合がおかしい。痛みは感じないが、ブクブクといった異音がするし、少し張った感じだ。先程とったばかりの機内食がおかしかったのだろうか。そんなはずはあるまい。筆者40年の搭乗経験の中で初めてのことだ。色々と原因を詮索している間に思い当たることが一つ浮かんだ。約9時間前に自宅で飲んだ牛乳がおかしかったのかなあ。1週間留守にするのでと賞味期限ぎりぎりの牛乳を残さずにコップ2杯半も飲み干してしまったのだ。通常は一度にこんなに多く飲むことはないのに、ついモットイナイ精神で飲んだのがいけなかったのだろう。下腹が緩む状態に至らなかったのが幸いで、2度目の機内食と共に赤ワインを賞味したら快方に向かった。ヘルシンキ空港にてブカレスト行きのフィンランド航空機に乗り継ぐためタラップに立った時、30年前の西ドイツ駐在時代の記憶が蘇ってきた。当時この空港には幾度となく降り立っているが、どんよりとした鉛色の空から降る小雨模様は10月下旬の定型天候であるが、それにしても暖かすぎる。やはり地球温暖化の影響だろう。当時ヘルシンキの北約150kmにあるタンペレという町を訪れた際の車窓より見える風景が夏と冬とでは、一変するという現象に驚いたものだ。フィンランドは森と湖の国と云われるが、冬には湖が凍って、あたかも平原のように変貌してしまう。

〈ブカレスト〉

2時間半のフライトの後、定刻通り19:30分にブカレストに着いた。33年前より空港ターミナルビルは立派になっていたが、入国審査官の

無愛想な態度と猜疑心をもった眼差しは、社会主義時代と少しも変わっていないのに驚愕とした。筆者が初めてブカレストを訪れたのは、社会主義体制の下チャウシェスクが次第に独裁色を濃くしていた1976年であった。当時ルーマニアでは、自国産の石油を活用してポリエステル繊維の国産化を推進しようと計画していた。日米欧の合繊メーカーにプラント輸出の引合が出され、その商談に筆者も西ドイツより参加した訳である。

この国の公務員の態度が33年前と変わっていないと気付かされたもう1つの例を記しましょう。故チャウシェスク大統領が日本円にして1,500億円を投じて造らせたという未完の宮殿「国民の館」の館内を見学する際には、先ずパスポートを受付で預けねばならない。現在「国民の館」は国会議事堂、会議場、博物館として利用されている関係上パスポートの一時保管は妥当かなと納得した。しかし館内案内の時間になっても受付の係員数人（公務員ときく）は、タバコをすいジュースを飲んでいるではないか。皮肉にも入口すぐ横の壁には禁煙・禁飲食の注意書が貼ってあるというのに、全くもって呆れ果てたものだ。現地ガイドさんによると休憩時間とのこと。社会主義体制が崩壊して20年経つというのに、一度手にした特権はなかなか手放せないらしい。これだけは万国共通のようだ。

ブカレストは20世紀初頭には「バルカンのパリ」と称されるほど美しい街並を誇っていたそうだが、現在その面影をкаろうじてとどめているのは旧市街の一部と、ブカレスト北部にある凱旋門（第一次世界大戦の戦勝記念としてパリのそれに似せて建造された）に続くキセレフ通りとビクトリア通り沿いのみであろうか。アールヌーボー調のエネスコ博物館或いはアテネ音楽堂がその数少ない1つであろうか。街の北部

に広がる森とか、大きなロータリーとか街全体の構成がパリに似ている。古い教会や歴史的な建造物は、一党独裁を続けた共産党によりほとんど破壊されてしまった。そのため歴史的な見どころが驚くほど少なく代わりにとてつもなく巨大な建物が目に留まる。前述の国民の館、旧共産党本部それにもう一つの典型的なスターリン様式の高層建築物等々。折しも今年はベルリンの壁崩壊に端を発し東欧革命に至った冷戦終結20周年に当る。振り返ってみるとベルリンの壁崩壊前の1989年夏のポーランド共産政権崩壊に始まり、秋以降のチェコスロバキアのビロード革命、ハンガリー、ブルガリア民主化を経て、年末のルーマニア流血革命まで共産党独裁体制崩壊のドミノ現象が起こった。1989年12月の流血革命の銃撃戦の舞台となった革命広場の石畳の上に立って、旧共産党本部の巨大な建物を暫し眺めていると、12月22日にチャウシェスクがテラスに立って大群衆を前に最後の演説を行ったが、群衆の激しい怒号を浴び屋上からヘリコプターで逃亡する様子をテレビ中継する映像に釘付けになったのが思い出された。

ブカレスト市内の交通渋滞の劣悪さには大変驚いた。道路は広いが異常なほどに自動車が多い。ガイドさんによるとルーマニアの人口約2,230万の内約210万人がブカレストに住んでいて、自動車数は驚くことに約200万台とのこと。1960年代から1970年代にかけてチャウシェスクがとった工業化政策の一環として、農村から労働者がブカレストに集められた。彼等のためのアパート群がブカレストの南部に建設されたのだ。筆者のホテルがブカレスト南部に位置していたため北部の空港に行くため市内を通過するのに1時間以上かかった。旧市街へと続く大通りの両側には、共産党規格の7階建てアパートが見苦しい姿を晒し林立していた。一部には修復済み或いは修復中のものも見られた。この景観とは対照的に地上の狭いスペースには、一寸の隙もなく様々なメーカーの乗用車が駐車されている。大雑把に数えてもアパートの室数と同じ位の比較的新しい車ばかりだ。当時チャウシェスクが労働者に車を持つことを奨励したらしい。これもアメの一つかも知れない。

ルーマニアは中世と現代が混在している国だと言われるが、ブカレストの大主教教会（ルーマニア正教の総本山）を訪れた際に、これを正に実感するところとなった。東方正教会の信者達は自分の好きな聖人を守護神として、その聖人の命日に巡礼するらしい。教会内には聖人ディミトリチ・バサラボフのミイラが聖体として祀られていて、10月25日が命日に当りルーマニア全土はもとよりギリシャ、ブルガリアからも巡礼に来るようだ。大主教教会の界限は巡礼者で大混雑してパトカーが数台停車して交通整理に当たっていた。巡礼者の多くは遠方より来ているらしく非常に大きな荷物そして黄・白の大輪の菊の花束を抱えている。辺り一面に漂う甘くて馨しい香りに誘われて教会へと歩みを進めて行った。現地ガイドさんの親切な計らいで、大混雑の中教会内の聖台に巡礼者がキスする様子を遠巻きに歩きながら見学させてもらった。巡礼者の素朴で純粋な祈りと敬虔な雰囲気涙が出るほど感動した。貴重な体験でした。感謝。それにしても祈りの順番待ちをしている巡礼者達の、我々観光客に見せる柔和な表情と寛容さはどこから来るのだろう。

〈シナイヤ〉

バスはブカレストを出てワラキア平原を北上した。80km程走った一帯で油井が数多く稼働していた。その向うには石油精製プラントが見える。辺りには牧草地とトウモロコシ畑が点在し、油井からそう遠くない草地では羊の群れが草を食べている。犬を連れた羊飼いの姿も見られる。なんと牧歌的で平和な風景だろう。ルーマニアには石油資源があったためか、社会主義時代にソ連とは少し距離をおいた政策をとり、コメコン諸国の中で異端者でおられた理由が分ったような気になった。バスは徐々に平原を抜けルーマニアを南北に縦走するカルパチア山脈に入ってゆく。しばらく山間道路を走り高い山々が緩やかに連なるカルパチア山脈の中腹に位置する「カルパチアの真珠」と呼ばれる中世の町シナイヤに着いた。17世紀に建立されたシナイヤ僧院は当時のままの姿で保存されている。現在でも僧院活動は昔のまま継続され

ており、近くに修道僧の僧坊が併設されているが尼僧坊は別の場所にあつて、僧院活動は共同で行われているようだ。現在でも僧院では俗世間との関わりを絶って祈りと労働に明け暮れる生活を送っているのだろうか。それにしてもカトリック修道院に比べて建物がかなり素朴で質素だ。ここからしばらく山道を登った森の中に19世紀後半にドイツ出身のカロール一世が、ルーマニア王室の夏の離宮として建造したペレシュ城と一見民家のたたずまいをしたペリショール城が現れた。この城の近くにあるレストランでとった昼食のチョルバ（田舎風煮込スープ）は、大変ヘルシーで美味だ。また直径30cmはあろうかと思われるパンを手頃切に切つて食すると、オーガニックな味と素朴な食感がたまらない。パンは勿論トランシルヴァニアで収穫された小麦からとれた小麦粉で作られており、文字通り自然な小麦色をしている。このパンを肴にルーマニア産の赤ワイン「ムルファトラー」を飲むと、ルーマニアの自然から元気を貰ったような気分になるから不思議である。



〈ブラショフ〉

シナイアからカルパチア山脈内の山間道路をさらに約50km程北に走った辺りに緑の谷間に箱庭のように収まっている中世の町並ブラショフがあった。この町は人口35万人のルーマニア第2の都市で、12世紀にドイツ人が建設しルー

マニア人とハンガリー人の3民族の手によって発展してきた。しかし街並とか黒の教会にはドイツ色の雰囲気強く感じられる。町の中心である黒の教会の南にスケイ門があり、12世紀の町建設当初には先住ルーマニア人は、スケイ門より内側には特別の許可がない限りは入れなかったそうだ。

ブラショフの南西約26kmにあるブラン城は小説「吸血鬼ドラキュラ」の居城のモデルとして知られる。ドイツライン川流域でよく見かける岩山の上にそびえる典型的な中世の城砦だ。ルーマニア南部のワラキア平原から侵入してくるオスマン軍を早く発見するために1377年にドイツ商人が築いたとされている。塔の最上階から見渡せるトランシルヴァニアの黄葉（紅葉ではない）した山々の風景が些か感傷的にさせた。昨日までの比較的暖かい気温に比べて、今日は一転して肌寒さを感じるせいだろうか。

ブラン城を下りた広場に所狭しと軒を並べている土産店をのぞき込んでいると、聞き覚えのある哀切のメロディーが何処からともなく聴こえてくる。音の発信源を求めてしばらく歩みを進めた直後に、これまでのバラード調のリズムからルーマニア民族舞曲ホラ・スタカートに軽快で激しいリズムに変わった。そして再びバラード調に戻った。音の発信源は天然アロマテラピーハーブ製品を売る店だった。この曲がヴァイオリニスト天満敦子の持曲で十八番の「望郷のバラード」であることと、そしてバラードがハーブと同様に癒し効果のあることに気付くのにそんなに時間はかからなかった。天満敦子の「望郷のバラード」との最初の出会いは、7年前名古屋のしらかわホールで行われた彼女のリサイタルだった。ここでこの曲の数奇な歴史を知った。

「望郷のバラード」は19世紀末、29歳の若さで薄倖の生涯を閉じたルーマニア人チプリアン・ポルムベスクの作曲によるもので、愛国者であったポルムベスクは、オーストリア・ハンガリー帝国に支配されていた母国の独立運動に参加して逮捕投獄される。曲は獄中で故郷を偲び、恋人に想いを馳せながら作り上げた哀愁漂うメロディーであり、ルーマニアでは誰知らぬ

もののない懐かしの名曲であるが、国外では知られることの少ない秘曲だった。天満敦子にこの曲の譜面を渡し「広く日本に普及を」と紹介を依頼したのは、当時の外務省東欧課長だった。彼がウィーンの日本大使館在勤中、郊外のレストランで哀愁に満ちた曲を奏でる亡命ルーマニア人楽士と出会い感動して親交を結ぶ。その8年後に2人はスイスで再会し「この曲を日本に紹介してくれるヴァイオリニストを探して」と、チャウシェスク独裁政権の圧政を逃れるべく夜陰にまぎれて国境を越えた時、携えてきた黄ばんだ1枚の楽譜を外交官に差し出した。しかし天満敦子にこの曲の演奏依頼があったのは、数年後の1992年の初夏、作者と亡命学士の母国ルーマニアの首都ブカレストであった。こうして「望郷のバラード」は、天満敦子の持曲となって日本に普及した。

この曲の出生地トランシルヴァニアで旅行者の筆者にしばしの癒し時間を与えてくれたハーブ店に感謝の意を表わして、携帯用のハーブ枕を1つ買った。心地よい癒し気分になりながら店を後にした。後ほど知ったことだが、トランシルヴァニアでは様々なハーブが栽培されているらしい。

昼食はルーマニア料理の定番サルマーレだった。薄めのトマトソースで煮込んだルーマニア風ロールキャベツといった表現がぴったりで、これまたルーマニア赤ワインと絶妙の相性だ。

〈シギショアラ〉

ブラショフから北西約120kmのところにあるシギショアラは、東側をカルパチア山脈、南側をトランシルヴァニア・アルプスに囲まれた丘陵地帯にあり、ザクセン人（ドイツ人）によって築かれた城塞都市とされる。14世紀に建造された時計塔を中心とした旧市街は、中世の雰囲気の色濃く残しており、ユネスコの世界遺産にも登録されている。時計塔は小高い丘の上に建っており、塔からの視界は360°遮るものは何もなく正に大パノラマだ。谷間を流れる川から視線をゆっくり上に向けると、小高い山の中腹に180°の広い範囲に亘ってルーマニア正教特有の小じんまりとした墓石が整然と並んだ共同墓

地が視野に入り大変印象的だ。時計塔のある広場の石畳は、目下リニューアルのための工事中で泥沼化し汚臭もあって歩行がままならなかった。それでもこの広場に面して建っている通称ドラキュラレストラン（小説吸血鬼ドラキュラのモデルであるヴラド・ツェベシュの生家）で食した豚肉と野菜の煮込み料理がこれまたルーマニア産赤ワインとよく合い、先刻の泥沼歩きの苦労を忘れさせてくれた。

12世紀にハンガリー王国の辺境防衛のために、この地に入植してきたザクセン人は、異民族侵入に備え教会を要塞化し有事には立てこもれるようにしていた。この種の要塞教会はシギショアラ周辺に点在しているようだ。しかし近年そのザクセン人達もだんだんと先祖の国ドイツに戻るようになり、空家はジプシーにとって期間限定の格好の住まいになっているようだ。ハンガリーの作曲家バルトークは、19世紀後半ハンガリーの領土であったトランシルヴァニア地方の農村をたびたび訪れ、この地方の民謡を採譜し参考にしながらルーマニア民族舞曲を作曲したとされるが、車窓より見える農村も訪れたのだろうか。

今回のルーマニアの旅を通して、スローライフを実践するには素朴さと寛容が大切であることを学んだ。修道院のモットーである「祈り働け」に倣って、軽めの労働と感謝を胸に、そしてハーブ枕をリュックにおさめて、中部空港行きの機上の人となった。





表彰者紹介

平成21年度叙位・叙勲受賞者は以下のとおりです。
5月29日の名古屋工業会の総会で、工業会からの表彰を行います。

「瑞宝中綬章」 (教育研究功労)

松浦 聖



【学 歴】

昭和28年3月 名古屋工業大学工学部土木工学科卒業

【職 歴】

昭和47年4月 名古屋工業大学工学部教授

昭和52年7月～昭和54年6月 第二部主事

昭和63年4月～平成2年3月 副学長

平成6年3月 定年退官・名古屋工業大学名誉教授

平成6年4月～平成13年3月 国土館大学教授

この度の叙勲は、多くの方々の温かいご支援ご指導のおかげと感謝致しています。

ここに母校名古屋工業大学の益々の発展を期待し、祈念申し上げます。

「瑞宝中綬章」(防衛行政事務功労)

寺村 善美

【学 歴】

昭和32年3月 名古屋工業大学土木工学科卒業

「瑞宝双光章」 (通商産業行政事務功労)

保母 金朗



【学 歴】

昭和35年3月 名古屋工業大学短期大学部電気科卒業

【職 歴】

昭和35年3月 通商産業省(名古屋通商産業局)

昭和60年4月 通商産業省名古屋通商産業局

公益事業部ガス保安課長

昭和61年4月 同 総務部エネルギー対策課長

平成元年7月 通商産業省中部通商産業局

公益事業部発電課長

平成3年12月 同 公益事業部公益事業課長

平成5年4月 同 公益事業部電源開発調整官

平成7年4月 通商産業省退官

平成7年4月 財団法人中部電気保安協会

平成10年6月 同 理事(企画総括部長、広報部長)

平成16年6月 同 理事退任

〔叙位叙勲受章者は名古屋工業会で表彰しますので、事務局まで連絡いただきますようお願いいたします〕

名古屋工業会の本部関係会議情報 (平成22年1月～22年2月)

○組織改革委員会 2月4日(木)18:00～

議題1 公益法人制度改革に伴う定款変更等について

(1)移行の方向性について 一般社団法人への移行を前提に準備を始める

(2)移行スケジュールについて 平成24年度に申請を予定

(3)定款変更について 一般社団法人としての定款について検討

○役員推薦委員会 2月19日(火)18:00～

議題 理事長、副理事長及び常務理事候補者について 候補者を提示し了承

○運営委員会 2月19日(火)役員推薦委員会終了後

議題1 平成22年度事業計画案について 一部修正して承認

2 平成22年度予算編成について 教育研究助成経費の配分について再検討

3 各委員会の活動報告について

・連携強化委員会－OBトップセミナー、就職ガイダンスについて報告

・会員増強委員会－新入生の入会勧誘方法の検討と今年度の出前勧誘の報告

・広報委員会－会誌の特集内容の説明とホームページのSNSの施行状況を説明

4 法人制度改革に伴う定款変更案について 組織改革委員会の内容を説明

5 支部交付金について 配分方法の変更に伴う定款附属規程の改正案

6 その他 ①平成22年度行事予定 ②叙位叙勲 ③第44回通常総会等

ごきそ ホットライン

平成21年度 名古屋工業会奨学金の授与

名古屋工業会から母校の在学生に対する奨学金の授与式が11月17日に行われ、日本人学生11名、留学生4名の計15名に篠田理事長から奨学金が授与された。

授与者を代表して物質工学専攻の橋詰純子さんから謝辞が述べられた。

授与者

大学院（博士前期課程）

物質工学専攻1年 大森加菜子、橋詰純子

機能工学専攻1年 YANG FAN

情報工学専攻1年 山下善稔

社会工学専攻2年 LAI HASI

創成シミュレーション工学専攻1年 WANG YANG

第一部 生命・物質工学科1年 落合達矢

生命・物質工学科4年 高崎勉、藤川雅道

環境材料工学科4年 倉地宏和、杠 洋輝

機械工学科3年 HOANG THANH HOAN

機械工学科4年 杉本大樹

建築・デザイン工学科1年 阿野田瑛二

第二部 社会開発工学科5年 笠井教行



篠田理事長から授与

奨学金を授与された皆さん（次ページ掲載分を除く）



山下善稔



高崎 勉



落合達矢



倉地宏和



杠 洋輝



杉本大樹



阿野田瑛二



笠井教行



YANG FAN



WANG YANG



HOANG THANH HOAN

博士前期課程 物質工学専攻1年 大森加菜子

家庭が経済的に厳しく、また日々研究活動を行っているのであまりアルバイトをする時間が取れず、自身で学費、生活費を負担することが困難です。そのため、この奨学金による援助は大変有難く大きな支えとなります。賜りました奨学金は、主に学費にあてさせていただく予定です。現在私は、有機化学分野においてインジウムを用いた新規反応について研究を行っています。研究を行う中で良い結果が得られることは少ないために苦勞し、くじけそうになることがあります。しかし今回奨学生に採用していただくにあたり、奨学生であることを自覚し、より精力的に研究に励まなければ、と感じました。

最後になりましたが、名古屋工業会奨学金制度を支えて下さっている寄付者の皆様、並びに関係者の方々に本当に感謝しています。また、こうして大学生活を送ることが出来るのは、家族や友人、そしてご支援下さる皆様の支えがあってこそだと強く感じています。これからも皆様への感謝の気持ちを忘れずに、ご期待に添えるよう努めたいと思っています。本当にありがとうございました。



博士前期課程 物質工学専攻1年 橋詰純子

家庭の経済状況が厳しい中、多くの人に支えられ、いま、名古屋工業大学大学院の1年生として研究に励むことができます。アルバイトもしながら、自分なりに期待に応えようと精一杯努力してきた結果、先生からの信頼が得られ、現在、重要な研究を任されるようになりました。ますます忙しくなるときに、家庭の事情も知っている先生から、名古屋工業会奨学生募集の話を聞きました。採用されたときはただただ驚くばかりでしたが、先生や両親にとっても喜ばれ、挑戦して良かったと思いました。この先も、名古屋工業会の皆様をはじめ、推薦してくださった先生や、経済苦の中でも常に応援してくれた両親への感謝の気持ちを決して忘れません。その期待に応えられるよう、奨学生としての自覚をもって、より一層研究に励んでいく決意です。本当にありがとうございました。



第一部 生命・物質工学科4年 藤川雅道

4年次から研究室配属となり、3年次までと比べものにならないくらい忙しくなりました。当初はアルバイトと研究室の方を両立してやっていけると思っていたのですが、実際には時間的にその両立はかなり厳しいものであることがわかり、出勤時間をずらすなどしてアルバイトに出ていましたが、アルバイトの終了時間が遅くなり、研究室へ遅刻をしてしまうこともありました。学業を疎かにできないため、このままではいけないと思い3年次までやっていたアルバイトをやめることしました。それに伴い経済的に苦しくなっていた現状がありました。そこに名古屋工業会からの奨学金制度があるとの情報を耳にして応募することにしました。今回、大変ありがたいことに奨学金をいただけることになり、授業料や生活費の足しにすることができました。この事実を切実に受け止め、大学院に進んでからも、学業、研究に精を出し、日々精進していきたいです。



博士前期課程 社会工学専攻2年 LAI HASI

私は中国の内モンゴルから参りました。日本にきて2年間の間に経済的な理由で私の人生がいろいろと変わりましたので、奨学金をもらって心の底から感謝しております。これからは一生懸命勉強し、日本で就職して日本と中国の平和のためにできるだけのことをしていきたいと思っています。また、一人のモンゴル人として自分の故郷と日本の良い交流のために頑張っていきたいと思っています。

将来私がどこでどんな生活をしていても、日本での経験と感想など日本の良いところを故郷の人々に教えていきたいと思っています。時間があったら内モンゴルに遊びに行つてね、いつでもいろいろな遊ぶところをご案内いたしますのでいつでもいらっしやってくださいね！



情 報

ネットワーク

第17回ごきそ会展（名古屋工業大学OB絵画展）開催

本学卒業の絵画を愛好する仲間が集まり毎年絵画展（ごきそ会展）を開催しておりますが、今年度も平成21年10月20日（火）から25日（日）まで名古屋市の伏見にあります電気文化会館5階東ギャラリーにて開催いたしました。今回で第17回を迎えるまでになり、OBをはじめ1000名余の方にご来場いただき大成功裏に終了する事が出来大変感謝しております。

現在会員数は28名で武藤三郎元学長を始め土木、建築・電気・金属・工業化学・紡織の学科出身者で現住地は中京及び関東地区が中心ですが中国地区の方も入会されています。今年久しぶりに3名の方が入会しました。

今回の出展者数は22名、作品数は77点、作品画材は油彩、水彩、日本画、パステルでF130号からハガキサイズまで多岐に亘っています。

現在昭和41年以降の会員の参加がありませんので高齢化が進んでおり、今後の運営が悩みの種です。絵画を愛好される方のご入会を是非希望しています。

ご入会希望者あるいは絵を描いている方の情報がありましたら、事務局までご連絡くださるようお願い致します。

次回は今年10月26日（火）から31日（日）までチャーチル会名古屋と同フロアで同時期に開催する予定です。

記：福田一豊（A36）

連絡先

事務局 福田一豊

〒465-0053名古屋市中東区極楽2-184

TEL 052(702)1504

E-mail : k_fu@d2.dion.ne.jp

今回の出展者

武藤 三郎（元 学長）	加藤 邦彦（K28）
日比野正憲（E28）	梶田 英夫（A29）
富田 憲（A29）	加藤 眞昭（A31）
神谷 義夫（A31）	栢本 良三（A31）
早川 茂次（A33）	本田 暎幸（D33）
青山 良穂（A34）	有木 喬（C34）
清水 昭（A34）	前田 隆（C34）
山田 銑一（K34）	伊藤 禎治（A35）
加藤 桂吾（A35）	木下 鈞一（A35）
栃尾 宗昭（A35）	福田 一豊（A36）
平川 史朗（A38）	木戸 眞人（A40）



会場入口



会場風景

第8回山岳部OB会報告

平成21年11月7日～8日に第8回目の山岳部OB会を御在所岳の麓湯ノ山で開催した。会場となった三重県勤労者福祉センター「希望荘」は、鈴鹿スカイライン沿いの自然に囲まれた静寂な環境の中にある。周囲の山々の紅葉も進む中、午後3時過ぎには早くも会員が三々五々到着し始め、夕刻6時からの開宴までには参加を申し込んだ28名（夫人同伴組も含めて）全員が受付を済ませた。今回は卒業以来ほぼ半世紀以上を経て初めてというOBも2名加わり、一昨年の山岳部創立50周年記念のOB会と劣らぬ盛大な催しとなった。

予定通り午後6時から開宴となったが、先ず物故者の冥福を全員で祈った。思い起こせば皆合宿で汗を流し、同じ釜の飯を食った懐かしい仲間ばかりである。増井利次氏（W32）による開会挨拶、そして卒業以来ほぼ半世紀後の初めての参加となる岡野修氏（E32）による乾杯の音頭へと進み、歓談の場を迎えた。

小林省三氏（C41）の司会により、順次出席者が近況や思い出の山行などを語る段になり、今回初めて参加された岡野氏を松井利郎氏（C32）が紹介した。

同氏は昭和31年、松井、増井両氏等が中心となって創設した山岳部の初代部員で、山岳部活動の主要メンバーであったことは勿論、さらに同氏の祖父は、今では日本アルプスの紹介者として知られているウェストン氏を尋ね、日本山岳会設立の切っ掛けを作った岡野金次郎氏であることも紹介された。我々後塵を拝するものにとっては、驚きと共に誇りの榮に浴することができるお話であった。また、岡野氏の談の中で、最近映画

化もされた新田次郎原作「剣岳、点の記」に触れられ、祖父から直接聞いた話として、原著にも書いてあるような、日本山岳会と陸軍測量部との剣岳初登頂の競い合いの事実はないということであった。因みに、岡野金次郎氏は小島烏水氏（日本山岳会初代会長）らと共に剣岳登頂に挑み、陸軍測量部から遅れること2年にして目的を果たしている。

思いがけない貴重なお話を拝聴して宴は益々高揚し、予定の3時間は瞬く間に過ぎてしまった。閉会の挨拶は、これもまた卒業以来半世紀、初めて出席された平田恭輔氏（A34）から賜り、めでたく宴を閉じた。

2次会は、カラオケ室で「雪山賛歌」、「山小屋の灯火」と昔の歌を皮切りに喉自慢を披露、またご夫人達は別室にてお喋り、と秋の夜の楽しい一時を過ごした。

翌朝は日の出を眺めながらの温泉。気分を一新して朝食を取った後、ほぼ全員が御在所岳に登った。観光客で賑わう山頂から秋の山並みを心行くまで展望し、再会を期して無事解散した。

記：大橋照男（K36）



山岳部旗を前にして

平成21年度NTT名工会総会開催報告

恒例のNTT名工会総会を「ローズコートホテル」（名古屋）にて去る10月2日（金）に特別講師として松井信行名古屋工科大学長をお迎えして開催しました。例年に並ぶ41名の会員の方々に参加頂き、盛況な総会でありました。

1. 総 会

事務局より平成20年度事業報告及び会計報告があり、続いて平成21年度役員選出を行い、満場の拍手にて承認されました。なお、今回は副会長・顧問の役員が改選されました。主な役員は次のとおりです。

- ・ 会長 大竹昌志（C54）
〔現役；NTTインフラネット（株）東海支店長〕
- ・ 副会長 岩崎勝利（E院②）
〔現役；（株）NTT西日本－東海 取締役ITビジネス本部長〕
武内成親（Es62）
〔現役；NTTコムウェア東海（株）経営企画部長〕
- ・ 顧問 片桐清志（Es44）
〔OB；シーキューブ（株）代表取締役社長〕
尾崎幸博（E48）
〔現役；（株）NTTネオメイト代表取締役社長〕
加藤薫（Es院52）
〔現役；（株）NTTドコモ取締役常務執行役員 経営企画部長〕
- ・ 事務局長 下條義康（DⅡ46）
〔NTTアドバンステクノロジ（株）東海支店長〕

2. 講 演 会

今回は特別講師として松井学長をお迎えし、「名古屋工業大学の現状と今後の展望」の演題で講演を行って頂きました。

最初に現在の学生数・教職員数及び収支状況の紹介があり、教育上の特徴のある事業、研究上の特徴ある活動、産学連携の実態、国際交流と留学生、最後に今後の課題についてお話し頂きました。松井学長のユーモアを交えた貴重なお話しで会場は終始なごやかな雰囲気包まれ、また松井学長の名工大への強い思いも我々

の胸に伝わって来ました。母校の話題ということもあり、皆が興味を持って熱心に聴き入っておりました。

3. 懇 親 会

大竹昌志会長の挨拶の後、今回の出席者のうち最も年長の不破幸雄さん（E30）の乾杯の発声により祝宴に入りました。特別講師の松井学長にもご出席頂き、宴たけなわとなり、各テーブルは学生時代の思い出話し、近況報告、各会社での仕事の話題など話しが弾みあつという間に時間が過ぎてしまいました。終盤の盛り上った頃、学歌「東海の邦のほまれ」を斉唱して、最後に平成21年度入社の新会員の正見健一朗君（ドコモモバイル東海）・服部加奈子さん（NTTネオメイト）・池田雅志君（NTTネオメイト）の力強い決意表明の言葉で締め、来年の再会を誓い合って散会としました。

記：下條義康（DⅡ46）



A34 (卒業50周年記念大会) の報告

平成21年12月1日(火)～2日(水)にかけて紅葉が迎えてくれる「鎌倉のKKRわかみや」にて卒業50周年を記念してクラス会を開きました。参加者は卒業生45名のうち会員25名と会員夫人1名の計26名でした。残念なのは鬼籍に入られた方8名、欠席者12名の中には出席したくても体調が悪かったり、家の事情でやむなく欠席といった方がいたことです。

我々三四会(平成34年建築学科卒業生同窓会)は卒業以来毎年新年会を開いていますが、記念大会は節目の年度に開き今回は45周年に続き7回目の開催です。卒業してから始めて会うことが出来た顔もありしばし顔を見つめ合う光景も見られました。しかし直ぐ50数年前の学生時代の顔を思い出しお互い手を取り合ったことでした。

宴会に先立ち物故者の冥福を祈って黙祷し、健康で参加できた事を感謝し乾杯に移りました。音頭をはるばる沖縄から出席した夫人同伴の澤村君にお願いし声高らかに唱和し杯を空け再会を祝いあいました。宴会も進みあちこちで会話の集まりが出来盛り上がりしましたが取り敢えず中締めをし、会場を二次会に移しカラオケで歌う者あり、話に弾む者あり、学生時代と同様の酒量を誇る者はワインやウイスキーの水割りを次々と重ね、約二時間を合せ乾杯から四時間、更に個室に移り夜中まで話は尽きませんでした。

翌2日は25名の参加者を得て市内定期観光遊覧バスを利用、鎌倉五山の第一位建長寺、鶴岡八幡宮、鎌倉宮、を観て昼食を摂り更に大仏を観、時間の都合で一部自由解散となり最後は長谷寺、江ノ島海岸でバス遊覧終了となりました。

宴会前の話し合いで更に55周年も開いてほしいと要望もあり新たに幹事を選び、備えをして行こうと決まり再開を約して散会となりました。

幹事：中村、清水、澁谷 文責：澁谷



C41 (42、43M) 在京同窓会

4年ぶりに東京C41(42、43M)会・同窓会を12月3日三軒茶屋の中華料理店「燕来香」で開催しました。4年生で「港湾工学」を担当していただいた久田安夫先生にお出でいただき、在京生14名が集まりました。当日は氷雨の中を先生はじめ同期の大勢の諸君が集まり、3時間という短い時間でしたが、大多数の諸君が仕事を離れ人生の残りをいかに有意義に過ごすか、それぞれの思いを熱く語り、大いに盛り上がりました。久田先生は80歳をとくに超えておられますが大変お元気で、まだお仕事にも出られ年数回のゴルフにも参加されているとのこと。その長寿の秘訣「5訓」も教わりました。

久しぶりでもあり、久田先生に寄せ書きを進呈させていただきました。又、記念撮影をして、来年の再会(来期の幹事：鳥居・山上)を期すことにしました。

当日の出席者は、前列の左から、渕上、草野、久田先生、山上、佐々木、河田、後列左から、中野、仲村、水谷、佐取、鳥居、小澤、秋山、本、樋田の諸君です。なお、都合で出席できなかった諸君は、北井、藤森(名古屋在住)、正木、森田の4君で、宮下君は連絡先不明でした。

記：幹事 河田



名工会ヨットクラブ(ヨット部OB会) 新年会

ヨット部のOBで組織する名工会ヨットクラブは平成22年1月22日、学内の交友会館一階のイタリアンレストラン・サラで恒例の新年会を催した。当日は松井学長と高橋副学長(次期学長)並びに市村ヨット部長(電気電子教授)をお招きし、院生を含む現役も交えて約40名の盛会であった。なお、篠田工業会理事長はヨット部OBであり、当然参加された。

開宴まえにはOB現役の懇談会を企画、オールOBから見れば孫世代の現役生との交流には隔世の感があった。

宴は赤羽幹事(M48)司会のもと、加藤代表幹事(W35)挨拶、現・次期学長に祝辞をいただいて始まり約3時間、市村部長の中締めと現役生のエールに続き、全員によるヨット部の歌の大合唱で幕を閉じた。

その後恒例の二次会は鶴舞中央線ガード下の居酒屋に席を移し延々深夜に及んだ。

なお、今年は全日本ヨットインターカレッジが蒲郡市海陽ハーバーで開催される。かつては二回の全国準優勝など全国に名をはせた名工大ヨット部も、この機会に数年の雌伏から立ち上がるべく練習に励んでいる。

この場を借りてヨット部の現況を伝えれば、かつて知多半島鬼崎港にあった艇庫は中部空港の造成にともない蒲郡市の海陽ヨットハーバーに移転、現艇庫は二階建てで階下に艇庫、二階が合宿所になっている。周囲には他大学艇庫がならび艇庫村を形成している。

部の成績は、数年まえまで部員不足に悩んでいたがようやく低迷期を脱し、現在部員数は18名で11大学が所属する中部学連では最多となり、当地区では優勝を争うまでに回復したものの、全国では残念ながら歯が立たないという状況。そこで、前記のようにご当地インカレを機に飛躍を期している。

記：柴田孝介(Y28)



第80回 名工大ごきそ会報告

21年12月11日(金)に会員17名で名門三好CC東コースにて開催しました。ゴルフの神様のいたずらの氷雨にもへこたれず、最終的に14名がスタート、アウトの終了時11名が何事もなくプレーを終えました。芯まで凍った身体への湯は忘れられません。

雨中、やはり実力者が上位でした。優勝は予想通り篠田陽史理事長(M33)でグロス92、ネット82、2位は泉地正章氏(W44)グロス94、ネット82、栄えあるブービーは柴田作氏(A42)でした。和やかな懇親会はいつも以上の盛り上がりでした。

今回、三好CCメンバーの野寄正一氏(W37)にオープン参加頂きました。これからも非会員の参加を働きかけたいと思います。3月に次回開催を確認し散会しました。 記：柴田 作(A42)



第201回名工会東京支部ゴルフ大会報告

夜来の雨も上がり、終始穏やかな晴天に恵まれて、2009年11月25日(水)に大厚木カントリークラブ・本コースの西・南コースにて、18名の参加で開催されました。

山川 元伸氏(A44)がネット74の好成績でしたが、初参加の為、会規により準優勝に回り、藤田 正浩氏(E33)がネット79で優勝されました。3位にはシニアの加藤 規氏(E30)が、シニア賞は黒田 達郎氏(C31)が獲得されました。

記：岡田 明義(E34)



投稿のお願い

名古屋工業会 広報委員会

「ごきそ」は会員の皆様からの投稿に支えられています。次の通り「ごきそ」への原稿を募集しておりますので、各ジャンルへの投稿をよろしくお願いいたします。

【原稿のジャンル】

- ◆交流コーナー（4頁以内）：自薦または他薦で会員のお仕事上の経験などを紹介
 - ◆学生コーナー（2頁以内）：名工大生の様々な活動を紹介
 - ◆研究紹介（4頁以内）：オリジナリティと学術的有用性のある研究論文
 - ◆講座（4頁以内）：最新技術情報など一般読者に役立つ内容
 - ◆随筆（3頁以内）：見聞・体験・感想・在学時代の思い出など
 - ◆紀行（3頁以内）：海外出張・留学・旅行など
 - ◆情報ネットワーク（0.5頁以内）：支部報告・会員ニュース・お知らせなど
 - ◆その他（1頁以内）：俳句・詩などの文芸、会員の著書・展覧会などの寸評、ご自由な意見など
- これら以外に広報委員会が設定する特集・連載記事を募集または依頼します。

【投稿規定】

- (1) **原稿の種類** 掲載希望ジャンルを上記から選択してください。
- (2) **原稿の長さ** 1頁あたり「文章1,000文字+写真・図・表2点」が目安です。規定の頁数に収まるように作成ください。
- (3) **原稿の作成と入稿**
 - ・原則として当用漢字と現代かなづかいの口語体を基調とします。
 - ・刷り上りはA4版2段組です。標準の文字数は1段が「21文字×38行=798文字」で、1頁につき「21文字×38行×2段=1,596文字」です。
 - ・手書き原稿でも結構ですが、なるべくワープロソフト（MS-Wordあるいはテキスト形式）を使用し、図表を含め仕上がり紙面に近い書式で原稿を作成ください。
 - ・写真および図版はいただいたものをそのまま使用します。提出はデジタル画像を歓迎します。写真や図版ごとにキャプション（短い説明）と通し番号を明記ください。
 - ・電子メールでの提出を歓迎します。10MBを超える場合は分割して送信ください。
- (4) **原稿の採否および掲載時期** 原稿は、原則として未発表のものに限ります。原稿の採否および掲載時期は広報委員会にて決定します。原稿の短縮や、表現・内容の修正等をお願いすることがあります。
- (5) **著者校正** 通常の場合、初校の著者校正をお願いします。
- (6) **原稿表紙** 電子メールの本文、あるいは原稿表紙には次の情報を記載ください。
 - ・著者名と所属、本学出身者の場合は卒業した学科（あるいは専攻）、卒業年度
 - ・原稿の種類（掲載希望ジャンル）
 - ・原稿の題目
 - ・顔写真の有無（有りの場合はプリントまたは電子ファイルを添付）
 - ・連絡先（郵便番号と住所、電話・FAX・電子メールなど）

【原稿送付先】

原稿送付および投稿に関するお問い合わせは下記宛にお願いします。

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4 社団法人名古屋工業会内広報委員会

Tel: 052-731-0780 Fax: 052-732-5298 E-mail: gokiso@lime.ocn.ne.jp

平成22年度 尾張支部総会のお知らせ

篠田理事長&高橋新学長もご参加の予定で、次の通り開催します。
会員各位のご参加をお待ちしています。初参加会員大歓迎です。

1. 日 時：平成22年4月10日（土）14時～18時30分
2. 場 所：稲沢市民会館 小ホール（稲沢市正明寺3-114 電話0587-24-5111）
3. スケジュール：①支部総会 14:00～14:35
②特別講演 14:40～15:40
『サクセスフル・エイジングーパート2ー』
講師：同朋大学 社会福祉学部 教授&経済学博士 伊東 真理子 先生
【注】平成13年度&平成17年度の特別講演が好評でした。その続編です。
③ミニコンサート 15:45～16:45
ソプラノ・平康悦子さん、フルート・大西圭子さん、ピアノ・柳河瀬貴子さん。
【注】曲目はクラシック。毎年大好評です。
④懇親会 17:00～18:30
特別講演講師、コンサート出演者にも参加していただき歓談。自己PRの時間あり。
4. 参 加 費：正会員 3,000円 会員(会費未納者) 4,000円 初参加会員 2,000円 家族(懇親会参加) 2,000円
ただし、特別講演およびミニコンサートのみご参加の場合は無料です。
5. 申込方法：正会員の皆様には、平成22年2月に文書で案内。同封の葉書で申し込み。
案内未着の場合は次の所へお問合せください。
〒492-8008 稲沢市赤池町2306 名古屋工業会尾張支部 玉田欽也（W32）
電話：0587-32-0829 ファックス：0587-34-5122

卒業50周年記念 全学科同期会開催のご案内

昭和35年（1960年）3月卒業した私達は、今年で卒業50周年を迎えます。

全国各地から入学してきて、全国各地へ就職していった我々は、学科毎の同窓会は開かれるものの、学生時代に語り合った他学科の皆様とは、殆ど会うことなく、今日に至りました。

この半世紀の間に、社会は大きく変化したものの、皆様は貴重な経験と実績を挙げてこられたことと思います。創立100周年も過ぎた母校 名古屋工業大学も大変に変貌していて、新しい学科、大学院や研究センター、そして高層な建物も多く設置されていて、卒業時とは様変わりしています。以上のようなことで、多くの方から同期会の気運が高まり、各学科の有志世話人が母校に集まり、半世紀ぶりに全8学科合同の同期会を名工大校内の校友会館1階の新設のレストランで、下記の通り開催することになりました。

皆様、全科合同の同窓会は最後の機会ですので、奮ってご参加下さい。開園100周年を迎えた鶴舞公園の花々も、皆様をお待ちしています。

1. 日 時：平成22年5月29日（土）午前11時～午後1時
2. 場 所：名古屋工業大学 校友会館（講堂奥横）1階 レストラン（cafe sala）Tel/Fax. 052-735-7937
3. 費 用：5千円

なお、ご出席者は、下記の各学科世話人へ、4月20日(火)までに連絡して下さい。

各学科世話人

C松原 照、A坂本修造、M木村金治、E藺田耕一、梅野正義、W松原 晃、日比貞夫、

D山中章右、Y水野孝一、K平松信彦

なお、当日午後2時から、名工大全学同窓会の(社)名古屋工業会の総会・特別講演会・懇親会が、栄、中日ビル5階で開催されます。工業会の会員でなくても参加できます。

「平城遷都1300年」を記念して 大阪支部「歴史探訪の会」及び「奈良部会」併催のお知らせ

(社)名古屋工業会大阪支部 支部長 木越正司 (C44)

事業委員会 委員長 三木敏裕 (E48)

「集いの会」担当 藤原康宏 (E36)、田中禎一 (E36)

「奈良部会」担当 長尾 寿 (A35)、西川嘉一 (G50)

会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて今年は、わが国の本格的な首都「平城京」が誕生してから1300年の節目の年になります。

従って、今回は舞台を奈良に移して、「春季歴史探訪の会」と「奈良部会」を併催いたします。

メイン会場となる「平城宮跡」では復原なった「大極殿」や「朱雀門」「東院庭園」等を解説ボランティアの方に案内して頂き、他にも復原された「遣唐使船」や「衛士の交代式」などを見学します。

その後、東大寺「大仏殿」に移動し、平素は拝観できない内部を特別に関係者より解説、ご案内頂きます。

最後は、「奈良部会」の行事として和食レストラン「天平倶楽部」にて東大寺前管長森本長老様よりご講演を頂いたあと、懇親会を行います。お時間が許せば、ぜひとも両方にご夫婦そろってご参加下さい。

記

1. 日 時：平成22年5月23日 日曜日 午前10時～午後8時半ごろまで
2. 集合場所・時間：近鉄「西大寺」駅北口前 「サンワビル」正面 午前10時
3. 行 程：

午前10時 近鉄「西大寺」駅前……平城宮跡「大極殿」「東院庭園」「朱雀門」「復原遣唐使船」等をガイド付きで見学(約2時間)……宮跡内にて自由食……再度、近鉄「西大寺」駅を經由して東大寺「大仏殿」に移動、内部の解説付き特別拝観……その後、「戒壇院」「二月堂」等を自由拝観して、午後5時ごろ解散。……近鉄「奈良」まで徒歩……以上「春季歴史探訪の会」の部。

「奈良部会」の部、徒歩にて、東大寺に隣接する和食レストラン「天平倶楽部」に移動し、前管長森本長老様より東大寺に関する興味深いお話(約1時間)を伺ったあと、懇親会と致します。

解散は午後8時半ごろの予定で、近鉄「奈良」、J R「奈良」駅までお送りいたします。

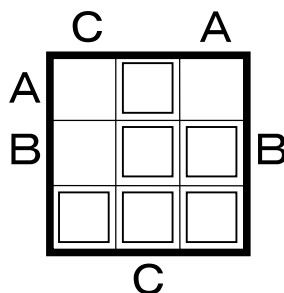
*後日、参加者には確定内容をメールまたはFAXにて送付いたします

4. 参 加 費 用：「春季歴史探訪の会」の部のみ 1,000円
「春季歴史探訪の会」プラス「奈良部会」 8,000円(同伴の奥様 5,000円)
5. 参加対象・人員：名古屋工業会会員とご家族、ご友人 50名
6. 申し込み締め切り：4月30日(金)
7. 申し込み先：藤原 康宏 (E36) E-mail y-fuji@kcn.ne.jp
 - ① 氏名：
 - ② 勤務先 (OBの場合も記載ください)：
 - ③ 住所：
 - ④ 学科・卒業年次：
 - ⑤ TEL：
 - ⑥ FAX：
 - ⑦ E-mail：

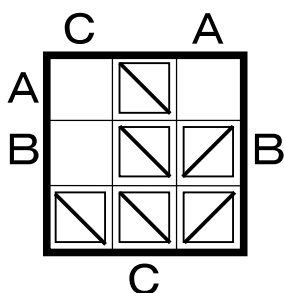
ごきそでパズル

今回のパズルは「リフレクター」です。
すべての□に、／か＼の鏡を配置してください。
各記号の位置から差し込んだ光が鏡で反射して、もう1つの同じ記号まで届くようにします。

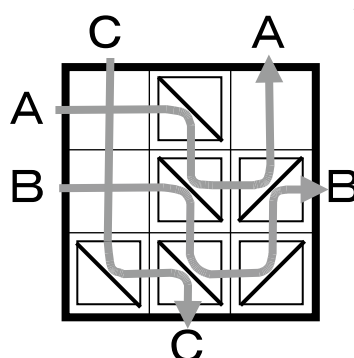
(例題)



(答え)

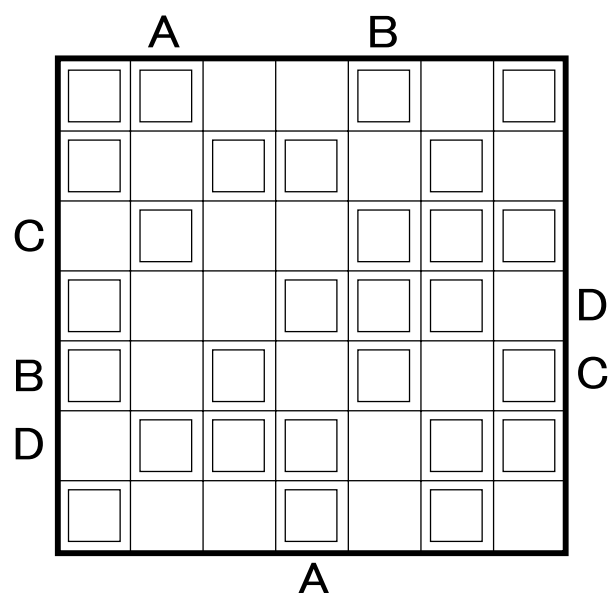


(例題の答の解説)



A から出た光は、
鏡で3度反射して
Aに届きます。
B, Cも同様です。

問題 鏡を配置してください。



解答は次号に掲載します。

パズル：稲葉直貴 (EJ⑬) 作

編集後記

この号を御覧になる頃には入試も終わり新入生を迎える時期となりますが、今回は名古屋工業会の活動に関わっている方々からの新入生へのメッセージを載せました。私自身も書いておりますが、読者の諸兄もそうだと頂ければ幸いです。また、法人化の波の打ち寄せる激動の時期に、平成16年1月から平成23年3月までの

約6年間、名工大の舵取りをしてくださった松井学長のインタビューを掲載いたしました。任期中の主な事業にありますように実に多くのことを成し遂げてこられました。その間の基本的な考えや苦労話も伺うことができました。松井学長のこの間のご尽力に心より感謝する次第です。
(北村)

特許業務法人
英知国際特許事務所

ElCHI Patent & Trademark Corp.

所長 弁理士 岩崎 孝治

—— 知財の総合コンサルタント ——

東京本部 〒112-0011 東京都文京区千石4-45-13
TEL : 03-3946-0531(代) FAX : 03-3946-4340

神奈川支部 〒224-0006 神奈川県横浜市都筑区荏田東1-23-2
TEL : 045-532-3827 FAX : 045-532-3828

北海道支部 〒078-8802 北海道旭川市緑が丘東二条4-11-12
TEL : 0166-65-2080 FAX : 0166-65-2080

浜松支部 〒430-0806 静岡県浜松市中区木戸町5-11
TEL : 053-461-5662 FAX : 053-460-6027

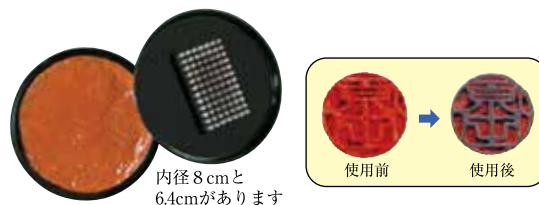
<http://www.eichi-patent.jp>

—いつも綺麗な捺印を—

印鑑や篆刻の印面に朱肉や紙粉が詰まり、捺印しても印影が綺麗に写らない場合があります。

そんな時、この“朱おとし”をご使用ください。

印面を傷付けず汚れを取り、綺麗に捺印することができます。
ゴム印のゴミでも綺麗に落とせます。



内径8cmと
6.4cmがあります

名古屋市西区名駅二丁目3番17号

名豊工業株式会社

代表取締役 原田 直輝 (D41)

電話 & FAX 052-541-6919

(株)ブライダルは
名古屋工業大学会員の皆様の
「結婚」を応援します。

32年の実績
(一橋大コースetc)



左のQRコードにて携帯サイトに
簡単にアクセスできます。
(一部対応しない機種がございます。)

名古屋工業大コース

これをご覧になったとおっしゃってください

会員サポート費 **50% OFF**

ブライダルコース ¥220,500 ▶ ¥189,000 etc.

エクセレントコース ¥378,000 ▶ ¥330,750 etc.

●ミドル・シニアの方々のプランにも特典がございます。

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

●成婚率は業界トップクラス。

●入会審査有り

●都庁・官公庁・有名大学などでメディア展開。

●お客様満足度NO.1のお世話を目指し少子化問題にも貢献。

株式会社 **ブライダル** お問い合わせ (月曜定休) ☎0120-415-412
<http://www.bridal-vip.co.jp>

名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F
Network 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

“仕事を通じて世界に喜びと感謝の輪を広げる”

高級耐火物、黒鉛坩堝、ファインセラミックス、景観材
ニューカーボン材、環境機能材、金属マトリックス複合材

創造性を追求する

株式会社 TYK

代表取締役会長 牛込 進 (Y33)

本社 ☎100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2
☎03-3201-0821 FAX 03-3213-3566

本部 ☎507-0818 岐阜県多治見市大畑町3-1
☎0572-22-8151 FAX 0572-22-0706

広報委員会

委員長 北村 正 (Es48)

委員 [〇：幹事]

○犬塚 信博 (J 62)	横山 淳一 (Fb⑥)
○中村 剛士 (EJ⑤)	山口 啓 (C 49)
森 聡	宇佐美智伯 (SU⑥)
秀島 栄三	平井 稔雄 (M⑤)
北川 啓介 (A⑧)	廣瀬 光利 (E 50)
糸魚川文広 (M61)	森川 民雄 (W45)
小坂 卓 (EJ⑥)	若尾 尚史 (D⑥)
山本 勝宏 (ZW⑥)	道家 清正 (Y 30)
本多 沢雄 (ZY⑥)	飯田 雅 (K 46)
鵜飼 裕之 (F 52)	杉江 紘 (F院44)

社団法人名古屋工業会会誌

「ごきそ」に広告を掲載しませんか!

「ごきそ」は15,000部を隔月発行し、
会員・広告主・関係官庁・各学会・大
学・図書館等に頒布されています。

詳細は名古屋工業会のホームページ

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

でご確認ください。

会誌「ごきそ」のバックナンバーは、名古屋工業会のホームページ
<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>でご覧いただけます。